

省エネ基準適否 チェックリスト

作成者： 建築 二郎 記入日： 2026年 11月 11日

物件名： ○○邸新築工事

地域の区分 4地域 5~7地域

建設地： ○○県 ○○市

◎建設地の地域の区分を確認してください。
◎建設地は、都道府県名及び市区町村名を記入してください。

1 断熱材の熱抵抗R

→P.8~13

◎断熱する部位と採用する断熱工法によって基準値が異なります。
◎断熱する部位とその部位の断熱工法をチェックし、「断熱材の製品名と厚さ」及び「熱抵抗 R」を記入のうえ、基準適否を確認してください。
◎1つの部位で複数の断熱工法を採用する場合は、それぞれの工法ごとに基準値を満たす必要があります。
◎1つの部位に複数の仕様がある場合は、性能が低い仕様（熱抵抗 R が小さい方）について記入してください。
◎該当する部位がない場合は、「該当部位なし」にチェックをしてください。

部位	断熱工法の基準値	断熱材の製品名と厚さ	熱抵抗 R [m ² ·K/W]	適否確認		
				該当部位なし	適合	不適
屋根	<input type="checkbox"/> 軸組充填：R≥4.6 <input type="checkbox"/> 桢組充填：R≥4.6 <input type="checkbox"/> 外 張：R≥4.0	製品名（又は断熱材の種類） 厚さ mm	R	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
天井	<input checked="" type="checkbox"/> 軸組充填：R≥4.0 <input type="checkbox"/> 桢組充填：R≥4.0 <input type="checkbox"/> 外 張：R≥4.0	製品名（又は断熱材の種類） グラスウール HG 2 4 -3 6 厚さ 160 mm	R 4.4	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
壁	<input checked="" type="checkbox"/> 軸組充填：R≥2.2 <input type="checkbox"/> 桢組充填：R≥2.3 <input type="checkbox"/> 外 張：R≥1.7	製品名（又は断熱材の種類） グラスウール HG 2 4 -3 6 厚さ 90 mm	R 2.5	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
床 (外気に接する部分)	<input type="checkbox"/> 軸組充填：R≥3.3 <input type="checkbox"/> 桢組充填：R≥3.1 <input type="checkbox"/> 外 張：R≥2.5	製品名（又は断熱材の種類） 厚さ mm	R	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
床 (その他の部分)	<input checked="" type="checkbox"/> 軸組充填：R≥2.2 <input type="checkbox"/> 桢組充填：R≥2.0	製品名（又は断熱材の種類） 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A 厚さ 65 mm	R 2.32	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
土間床等の外周部分の基礎壁 (外気に接する部分)*	<input checked="" type="checkbox"/> 軸組充填：R≥1.7 <input type="checkbox"/> 桢組充填：R≥1.7 <input type="checkbox"/> 外 張：R≥1.7	製品名（又は断熱材の種類） 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A 厚さ 50 mm	R 1.78	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
土間床等の外周部分の基礎壁 (その他の部分)*	<input checked="" type="checkbox"/> 軸組充填：R≥0.5 <input type="checkbox"/> 桢組充填：R≥0.5	製品名（又は断熱材の種類） 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種 b A 厚さ 20 mm	R 0.71	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

*玄関、勝手口等の土間床部分の断熱を省略する場合には、当該部分を除く基礎壁について確認してください。

2 開口部(窓、ドア)の熱貫流率Uと日射遮蔽対策

→P.14~15

◎地域の区分によって基準値が異なります。
◎「製品名」及び「窓又はドアの熱貫流率U」「窓の日射熱取得率 η 」を記入のうえ、基準適否を確認してください。
◎複数の仕様がある場合は、熱貫流率Uについては性能が低い仕様（熱貫流率Uが大きい方）、日射遮蔽対策については、窓の日射熱取得率 η が大きい仕様を記入してください。
◎5~7地域において該当する窓がない場合は、「該当部位なし」にチェックをしてください。

部位	基準値		製品名	窓 又は ドアの熱貫流率 U [W/(m ² ·K)]	窓の日射熱取得率 η [-]	適否確認		
	熱貫流率	日射遮蔽対策				該当部位なし	適合	不適
窓	4地域 U≤3.5	有効なひさし、軒等がある所に設置する窓	製品名（又は建具とガラスの種類）	U		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5~7地域 U≤4.7		製品名（又は建具とガラスの種類） アルミサッシ+複層ガラスA12 (Low-e)	U 3.49		η 0.32	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
ドア	4地域 U≤3.5 5~7地域 U≤4.7		製品名（又は桢と戸の種類） アルミ製ドア	U 3.49		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

3 設備機器の仕様

→P.16~17

▲下記に記載のない設備機器（床暖房など）を設置する場合、このチェックリストは使用できません。この場合、省エネルギー消費計算プログラムにより設置の適否を確認してください。（省エネ適合性判定）
◎暖冷房設備は、暖冷房する範囲を選択したのち、各々についていずれかを選択してください。
◎暖冷房設備を設置しない場合は、「設置しない」にチェックをしてください。

注) 各機器のチェックは暖冷房の範囲と連動していませんので、選択を誤った際には手動でチェックを外して下さい。

住戸全体を暖冷房 → ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの

居室のみを暖冷房

暖房と冷房の両方について以下のいずれかを選択

- パネルラジエーターで以下のいずれかを選択
 - ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率83.0%以上(4地域)、87.8%以上(5~7地域)のもの
 - ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率78.9%以上(4地域)、82.5%以上(5~7地域)のもの
 - ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る）
- ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が (い) 又は (ろ) のもの
- FF 暖房機の熱効率 86.0% 以上のもの (4地域に限る)

冷房 → ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が (い) 又は (ろ) のもの

設置しない

換気設備
右記のいずれかを選択

- ダクト式第一種換気設備（熱交換なし）で、ダクト内径が 75mm以上で、かつ DC モーター（直流）のもの
- ダクト式第二種 又は 第三種換気設備で、ダクト内径が 75mm以上のもの
- 壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの

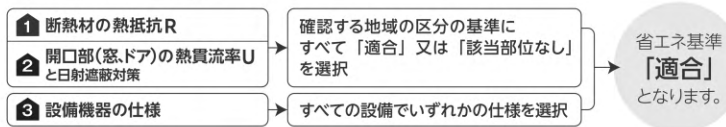
給湯設備
右記のいずれかを選択

- 石油潜熱回収型給湯機【エコフィール】のモード熱効率 81.3%以上(4地域)、77.8%以上(5~7地域)のもの
- ガス潜熱回収型給湯機【エコジョーズ】のモード熱効率 83.7%以上(4地域)、78.2%以上(5~7地域)のもの
- 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】の JIS効率 2.9 以上(4地域のみ、5~7地域は問わず)のもの

照明設備

- 非居室の全ての照明に、LED 又は 蛍光灯を設置している

省エネ基準への適合確認のプロセス

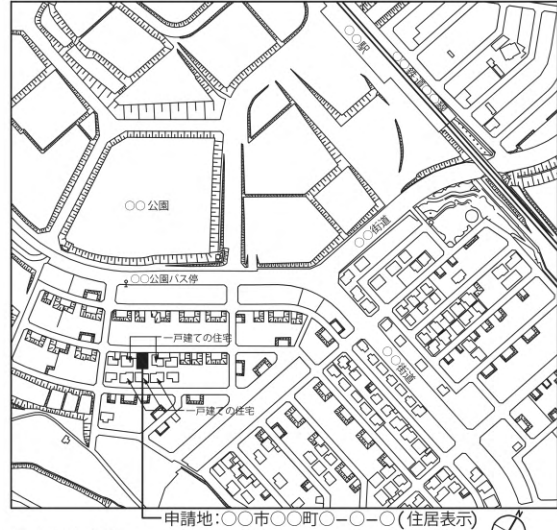


省エネ基準適否

適合 不適

引用：性能表示協会 参考事例集(戸建て住宅)より	一級建築士事務所 ●●●●建築士事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 二郎	○○邸新築工事
省エネ基準 チェックリスト	-	-

■付近見取図 S=1/5000



申請地：○○市○○町○○○(住居表示)

■計画概要

工事名称	○○邸新築工事	
建築主	住所	東京都○○市○○町○○○
	氏名	住宅 太郎
敷地概要	地名地番	東京都○○市○○町△-△
	住居表示	東京都○○市○○町○○○
	敷地面積	165.00㎡
	都市計画区域	市街化区域
	用途地域	第1種低層住居専用地域
	防火地域	指定なし(法22条区域)
	指定建築率	50%
	指定容積率	100%
	高さ制限	10m
	高度地区	-
日程規制	4時間、2.5時間、1.5m	
道路	前面道路幅員6.000m、接道長さ11.000m	
	土砂災害特別警戒区域	-
建築概要	建物用途	一戸建ての住宅
	工事の種類	新築工事
	構造	木造
	階数	2階建て
	地盤面	BM+0.336m
	最高高さ	8.114m
	軒高さ	6.404m
	建築面積	71.21㎡
	床面積	1階床面積 69.22㎡ 2階床面積 52.99㎡ 延床面積 122.21㎡

■仕様表

住宅の名称	○○様邸(東京都○○市○○町○○○)			単位:特記なき限り(mm)		
仕様を複数ある場合、必要最小限の仕様のもの、又は仕様の範囲を以下に記載	小項目	仕様	備考			
令第2章第2節(居室の天井の高さ、床の高さ及び防湿方法)	建築材料(法第37条)	基礎コンクリート	JIS	設計基準強度Fc:24N/mm以上 スランプ:18cm以下		
		基礎鉄筋	JIS	SD295		
		居室の床の高さ及び防湿方法(令第22条)	床の高さ	640(直下の地面(BM+400)から)		
			防湿方法	ねこ土台(有効換気積75cm ² /m)		
	令第3章第2節(構造部材等)	構造部材の耐久(令第37条)	構造耐力上主要な部分	腐食、腐蝕、摩損のおそれのあるものに腐食等防止の措置		
			支持地盤の種類及び位置	砂質地盤(GL-0.5m)		
		基礎(令第38条)	基礎の種類	べた基礎		
			基礎の底部からの深さ	GL-100、根入れ:GL-300		
		基礎の底部に作用する荷重の数値・算出方法	地盤の許容応力度 30kN/m ²			
		基礎の底部に作用する荷重の数値・算出方法	対象外(木くい無し)			
	鉄筋	主筋:D13、立上り・底盤・開口補強筋:D10				
	鉄筋	フック有				
	地盤調査(令第38条)	地盤調査	SWS試験			
	地盤改良	該当なし				
屋根ふき材等(令第39条)	屋根ふき材の固定方法	平部:全数固定、棟部:ねじ固定、軒-けらば:ねじ3本固定				
	屋外に面する部分のタイル等の緊結方法	該当なし				
	太陽光システム等を設置した際の防錆処理	該当なし				
木材(令第41条)	木材の規格(JAS)または等級	横架材、柱材、筋かい等、その他:無等級材 耐力上の欠点のないこと				
	柱脚の固定方法	土台120×120(ヒキ、無等級材)を設ける				
土台及び基礎(令第42条)	土台の固定方法	アンカーボルト(M12)×座金(厚)4.5×40角×14φにより緊結、柱から200以内に設置(設置間隔:2700以内)				
		Zマーク表示金物又は同等認定品				
柱の小径(令第43条)	横架材間距離	1階 小径120、横架材相互間の垂直距離の最大:2844 柱の小径と横架材間内寸法法の比率:1/23.7 2階 小径120、横架材相互間の垂直距離の最大:2730 柱の小径と横架材間内寸法法の比率:1/22.8				
	柱断面の欠き取り(1/3以上)の有無	1/3以上欠き取りの場合は適切に補強				
	2階建てのすみ柱	通し柱、又は同等の補強(N値計算による)				
	有効細長比(最大値)	1階 産屋長:2844、断面最小二次率半径:34.64 柱の有効細長比=82.1<150 2階 産屋長:2730、断面最小二次率半径:34.64 柱の有効細長比=78.9<150				
令第3章第3節(木構造)	はり等の横架材(令第44条)	中央部付近の下側に耐力上支障のある欠き込み	欠込み:無し			
	筋かい(令第45条)	筋かいの欠き込み	45×90			
		筋かいの欠き込み(必要場合)たすき部補強:両面から短冊金物(S)当て六角ボルト(M12)締め、スクリュー<ズ(ZS50)打ち	Zマーク表示金物又は同等認定品			
	構造耐力上必要な軸組(令第46条)	第1項	主要な梁せい:スギ(120×120~240)			
		第3項 床組・小屋ばり組の火打、構造用合板等、振れ止め	床組:構造用合板(厚)24 小屋ばり組:火打ちばり(木製)、振れ止め:設置 火打土台:スギ(45×90)ユニットバス、土間床部分は除く			
	第4項 壁量基準(耐震・耐風)	筋かい(45×90)シングル、ダブル、配置は壁量平面図による、準耐力壁は外壁周囲の大壁部分	筋かい(N値計算による)			
		筋かい端部	緊結方法:筋かいプレート(BP2等)			
	継手・仕口(令第47条)	耐力壁側柱頭・柱脚	N値計算による			
		その他の柱頭・柱脚	かど金物(CP-L)等			
	防錆措置等(令第49条)	鉄筋モルタル下地等の防水措置	該当なし			
構造耐力上主要な部分の柱、筋かい、土台		地面から1mの範囲で防錆・防蟻処理				
令第3章第4節の2(補強コンクリートブロック造)	塀(令第62条の8)	構造方法	控え壁なし			
		材料の種類	建築用コンクリートブロックA種			
		壁の厚さ	150			
	補強筋端部	補強筋	壁内部 縦横に80cm間隔にD10配置 補筋:壁頂・基礎補強筋、縦筋:壁端部、隅角部 D10			
		補強筋端部	端部はかざ状に折り曲げ、交差する鉄筋にかざ掛け 粘土瓦(防災瓦)			
	防火構造延焼のおそれのある部分(法第22条)	屋根	構造用合板特種(厚)12 鉄丸<ズN38 150ピッチでたるきに固定			
		野地板	改質アスファルトルーフィング940(22kg)			
		防水紙	改質アスファルトルーフィング940(22kg)			
		外壁(法第23条)	仕上			
	居室の内装(令第20条の7)	軒巻(令第108条)	仕上			
内装材(複合フローリング、集成材、ビニルクロス、化粧石膏ボード、ふすま紙、内装・収納ドア、洗面化粧台、キッチンセット、接着剤)		全てF☆☆☆☆				
居室の換気	換気設備(令第20条の8)	第3種機械換気設備 80m ³ /h ×2基(1,2階便所に設置)、各居室に給気口設置 台所はレンジフードによる(換気量○Om ³ /h)				
	天井裏等(合板、構造用合板、収納内板、石こうボード)	全てF☆☆☆☆				
給排水衛生設備	建築設備の構造強度(令第129条の2の3)	昇降機以外の建築設備の構造方法	建築物に設ける昇降機以外の建築設備の安全設置に関する平12建第1388号および同左第5改正(平24国交告第1447号)の構造方法に従い設置			
	給水・給湯管材料	給水・給湯管材料	引込:ステンレス管 敷地内:耐衝撃硬質塩化ビニル管 住戸内:架橋ポリエチレン管			
		給水・排水その他の配管設備(令第129条の2の4)	排水管材料	排水管:コンクリート製、硬質塩化ビニル製 排水管:硬質塩化ビニル製排水管 地中埋設管:防食テープにて処理 排水勾配:1/100以上 管径は、上下水道局の基準による		
	水栓	水栓	吐水口空間を有効に確保する			
特定行政庁が条例、規則で定める規定	法第40条	-				
	法第41条	-				

■内部仕上表

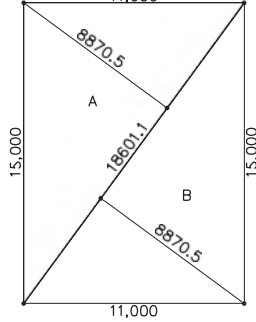
階	室名	床			巾木			壁			天井			備考
		仕上 下地	記号	厚	仕上	H	厚	仕上 下地	記号	厚	仕上 下地	記号	厚	
1階	玄関	磁器質施釉タイル150角	F1	9	磁器質施釉タイル150角	150	9	ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	手すり下地
		モルタル	F1	30				せっこうボード	W5	12.5		せっこうボード	C4	9.5
	ホール・廊下	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5	木製回縁	せっこうボード	C4	9.5
	物入	合板1類	F5	15	雑巾摺			合板1類	W4	9.5	木製回縁	合板1類	C3	9.5
		構造用合板	F6	24										
	納戸	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	点検口(天井)
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5	木製回縁	せっこうボード	C4	9.5
	和室(特定寝室)	本堂敷き	F2	30	畳寄			じくら<塗	W2	8	木製回縁	化粧せっこうボード	C2	9.5
		構造用合板	F6	9				ラスボード	W6	7.5		床:カラマツ縁甲板(7)15		
	押入	合板1類	F5	15	雑巾摺			合板1類	W4	12.5	木製回縁	合板1類	C3	9.5
		構造用合板	F6	24										
	台所	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	レンジフード、掃除口(トラップ)
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5	木製回縁	せっこうボード	C4	9.5
居間・食事室	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1/W3	12.5/8	木製回縁	ビニルクロス貼	C1	カーテン	
	構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5/	12.5/	木製回縁	せっこうボード	C4	9.5	
洗面・脱衣室	塩化ビニル製床材	F3	2.3	ビニル製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		塩ビ製回縁	ビニルクロス貼	C1	換気扇、掃除口(トラップ)	
	構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5	塩ビ製回縁	せっこうボード	C4	9.5	
便所	塩化ビニル製床材	F3	2.3	ビニル製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		塩ビ製回縁	ビニルクロス貼	C1	手すり、換気扇	
	構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5	塩ビ製回縁	せっこうボード	C4	9.5	
浴室												ユニットバス1616(バリアフリー仕様手すり、換気扇、掃除口(トラップ))		
2階	階段	集成材段板	F4	30			ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	手すり	
	廊下	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	せっこうボード	W5	12.5	木製回縁	せっこうボード	C4	9.5
		構造用合板	F6	24				ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	
	物入	合板1類	F5	15	雑巾摺			せっこうボード	W4	9.5	木製回縁	合板1類	C3	9.5
		構造用合板	F6	24										
	洋室1.2	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	カーテン
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5	木製回縁	せっこうボード	C4	9.5
	主寝室	フローリング	F1	15	木製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		木製回縁	ビニルクロス貼	C1	カーテン
		構造用合板	F6	24				せっこうボード	W5	12.5	木製回縁	せっこうボード	C4	9.5
	便所	塩化ビニル製床材	F3	2.3	木製巾木	60	15	ビニルクロス貼	W1		塩ビ製回縁	ビニルクロス貼	C1	手すり、換気扇
構造用合板		F6	24				せっこうボード	W5	12.5	塩ビ製回縁	せっこうボード	C4	9.5	

■外部仕上表

部位	下地・仕上	備考
基礎	鉄筋コンクリート造ベタ基礎	
床下換気口	ねこ土台(有効面積200cm ² /m、高さ20mm)	防虫網
外壁	窯業系サイディングボード18mm(通気構造)	防火時間30分(認定番号:PC030BE-○○○○)
軒裏	繊維混入フイ酸がれ板厚11mm	防火時間30分(認定番号:QF030RS-○○○○)
外部開口部	アルミ製ドア、アルミ製サッシ 複層ガラスA12(網入厚6.8合)	防火時間20分(認定番号:EB-○○○○,△△△△,□□□□,●●●●)
屋根	野地板:構造用合板 特種 厚12mm	防火設備
	改質アスファルトルーフィング 粘土瓦	

引用:一般財団法人 日本建築防災協会 一般財団法人 建築行政情報センター 発行 確認申請・審査マニュアルより	一級建築士事務所 ●●●●建築士事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 二郎	○○邸新築工事	1/5000	01
計画概要・付近見取り図・内部仕上表・外部仕上表・仕様表				

■敷地面積求積図 S=1/300



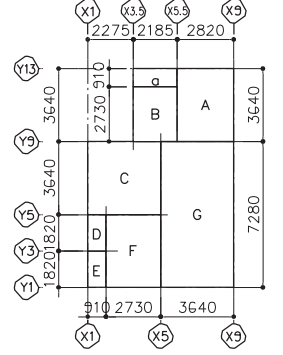
■敷地面積表

符号	底辺	高さ	倍面積
A	18.6011	8.8705	165.0010
B	18.6011	8.8705	165.0010
倍面積合計			330.0021
合計面積			165.0010
地積			165.00 m ²

■配置図 S=1/100



■1階床面積及び建築面積求積図 S=1/300



■床面積表

	縦	横	面積
a	0.91	2.185	1.98835
A	3.64	2.82	10.2648
B	2.73	2.185	5.96505
C	3.64	3.64	13.2496
D	1.82	0.91	1.6562
E	1.82	0.91	1.6562
F	3.64	2.73	9.9372
G	7.28	3.64	26.4992
H	3.64	3.64	13.2496
I	3.64	3.64	13.2496
J	4.55	3.64	16.562
K	2.73	3.64	9.9372

■各位置高さ

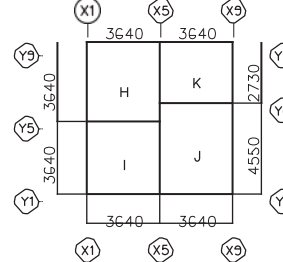
	道路中心高からの高さ	地盤面からの高さ
樋先 i	3.610 m	3.324m
樋先 ii	6.472 m	6.186m
寄棟頂部	8.400 m	8.114m

■斜線検討

斜線検討 I
 道路斜線距離 = 7.465
 道路斜線の高さ = 7.465 × 1.25 = 9.331
 軒先 i 高さ = 3.610 ∴ OK

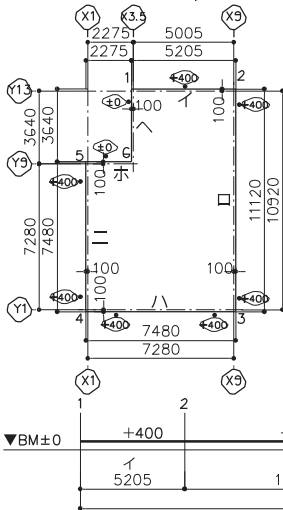
斜線検討 II
 北側斜線距離 = 2.007
 北側斜線の高さ = 5.000 + 2.007 × 1.25 = 7.508
 軒先 ii 高さ = 6.186 ∴ OK

■2階床面積求積図 S=1/300



1階床面積	A+B+C+D+E+F+G=	69.228 m ²
	=	69.22 m ²
2階床面積	H+I+J+K=	52.998 m ²
	=	52.99 m ²
延床面積 ≒ 容積対象面積		
	1階床面積 - 2階床面積 =	122.21 m ²
	容積率 74.07% <	100% (∴ OK)
建築面積	a+A+B+C+D+E+F+G=	71.216 m ²
	=	71.21 m ²
	建蔽率 43.16% <	50% (∴ OK)

■地盤面算定表 S=1/300

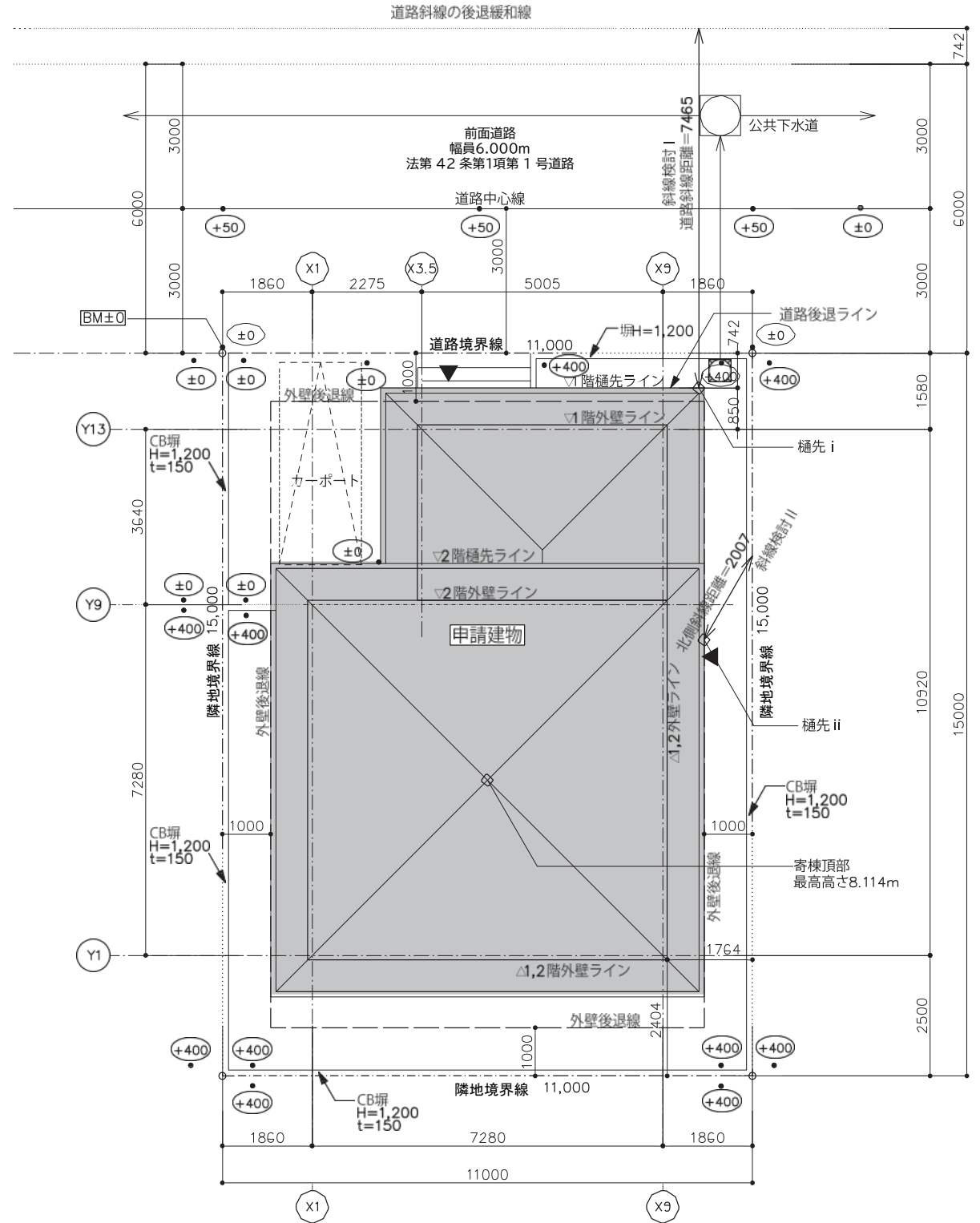
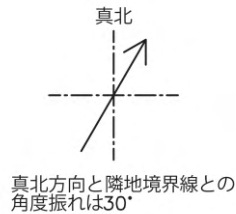


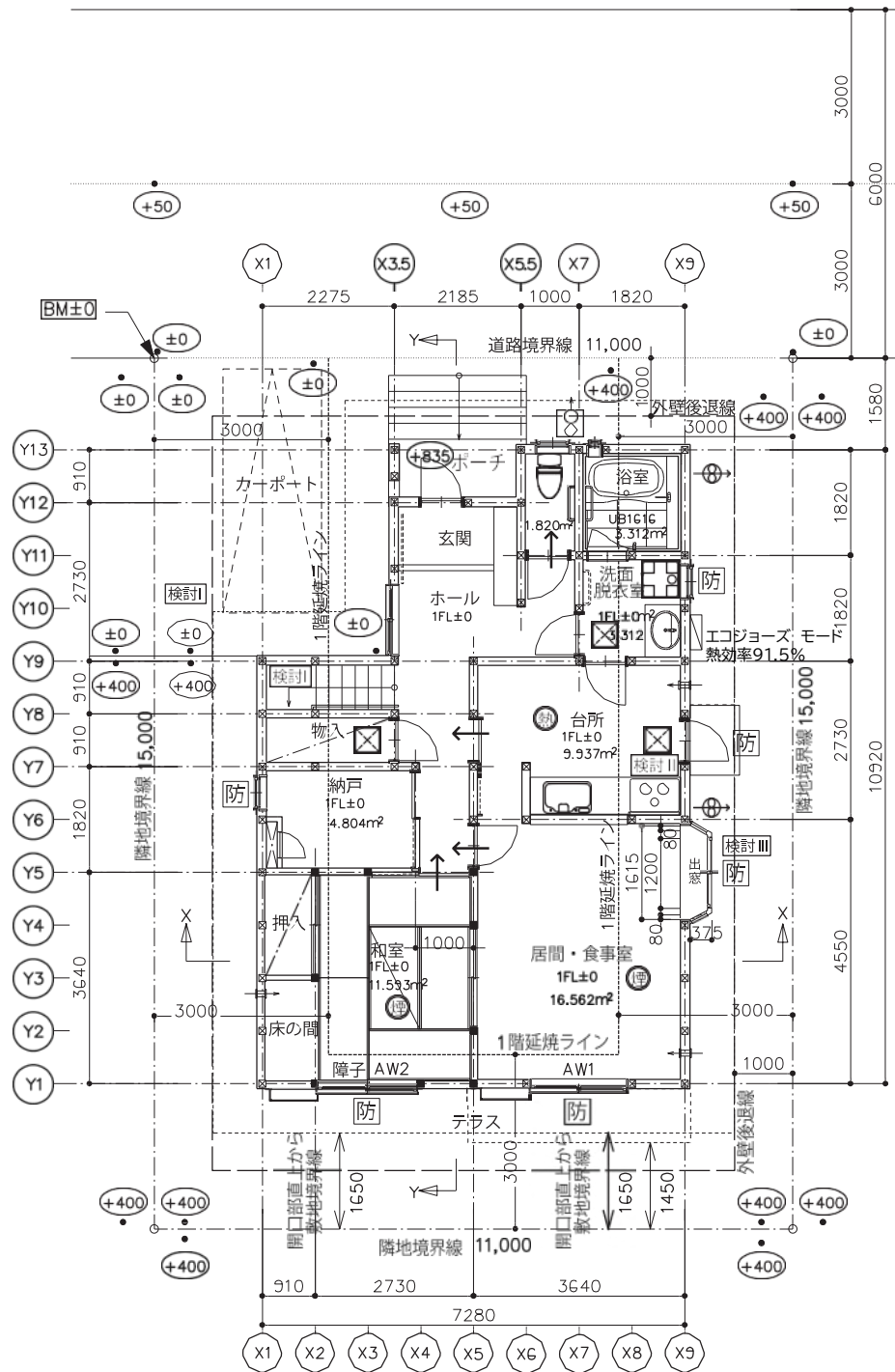
■地盤面算定表

	長さ m	高さ m	面積 m ²
イ	5.205	0.4	2.082
ロ	11.12	0.4	4.448
ハ	7.48	0.4	2.992
ニ	7.48	0.4	2.992
ホ	2.275	0	0
ヘ	3.64	0	0
合計	37.20		12.514
地盤面	= 12.51m ² /37.20m		= 0.33639m
			= BM+336mm

■凡例

- 排水桝
- 地盤面=BM+336
- (±0) BMからの高さを示す





検討Ⅰ
・階段検討
有効幅 766
蹴上げ 階高/段数=2900/15
=199.33
踏面 910/4=227.5
手摺幅 壁から90

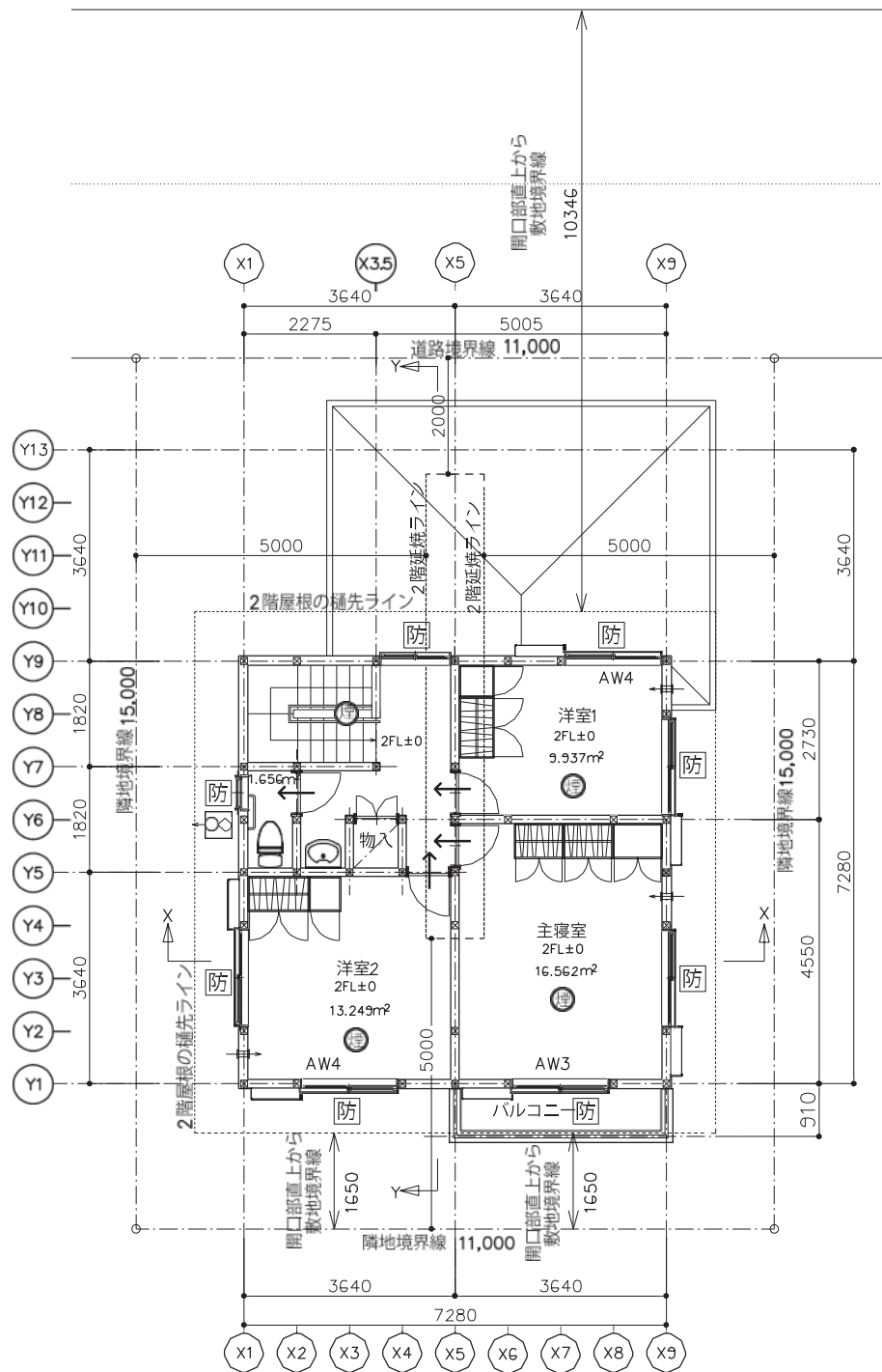
検討Ⅱ
・台所換気設備計算 (火気使用室)
有効換気量 = 400
必要換気量 = $30 \times K(m^3) \times Q(kWkg/h)$
= 300.76
K (都市ガス) = 0.93
Q = 10.78
→ 有効換気量 > 必要換気量

検討Ⅲ
・出窓
出幅: 外壁面より375<500
高さ: 床より800>300
窓面積 = $1.615 \times 1.2 = 1.938$
見附面積 $\times 1/2$
= $1.615 \times 1.2 \times 1/2$
= 0.969
窓面積 \geq 見附面積 $\times 1/2$

地盤面 = BM+336
±0 : BMからの高さを示す

給湯設備: エコジョーズ モード熱効率91.5%
照明設備: 非居室全てLED設置

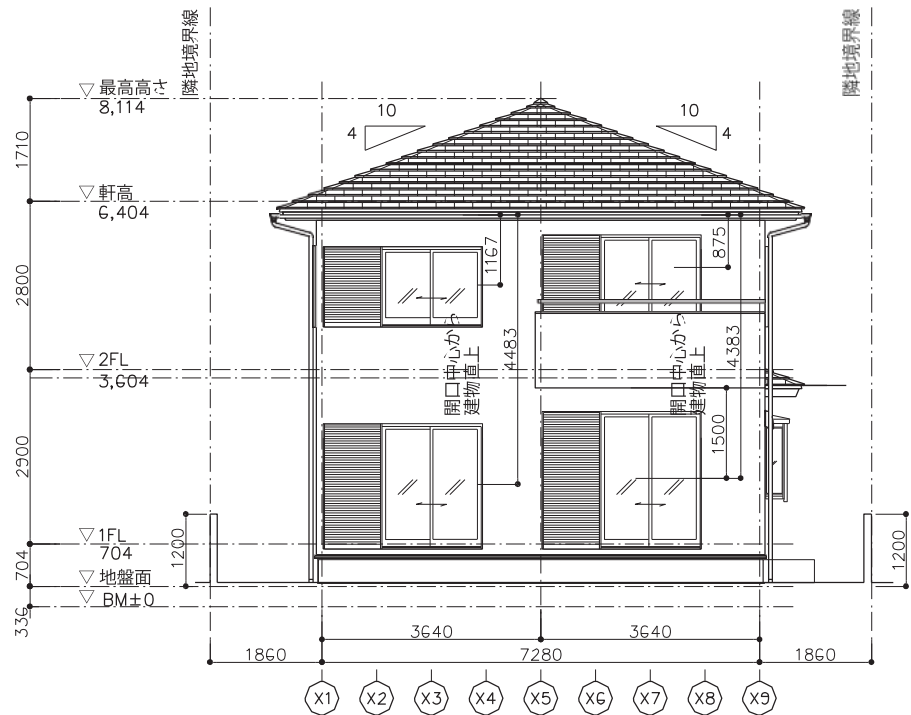
■1階平面図 S=1/100



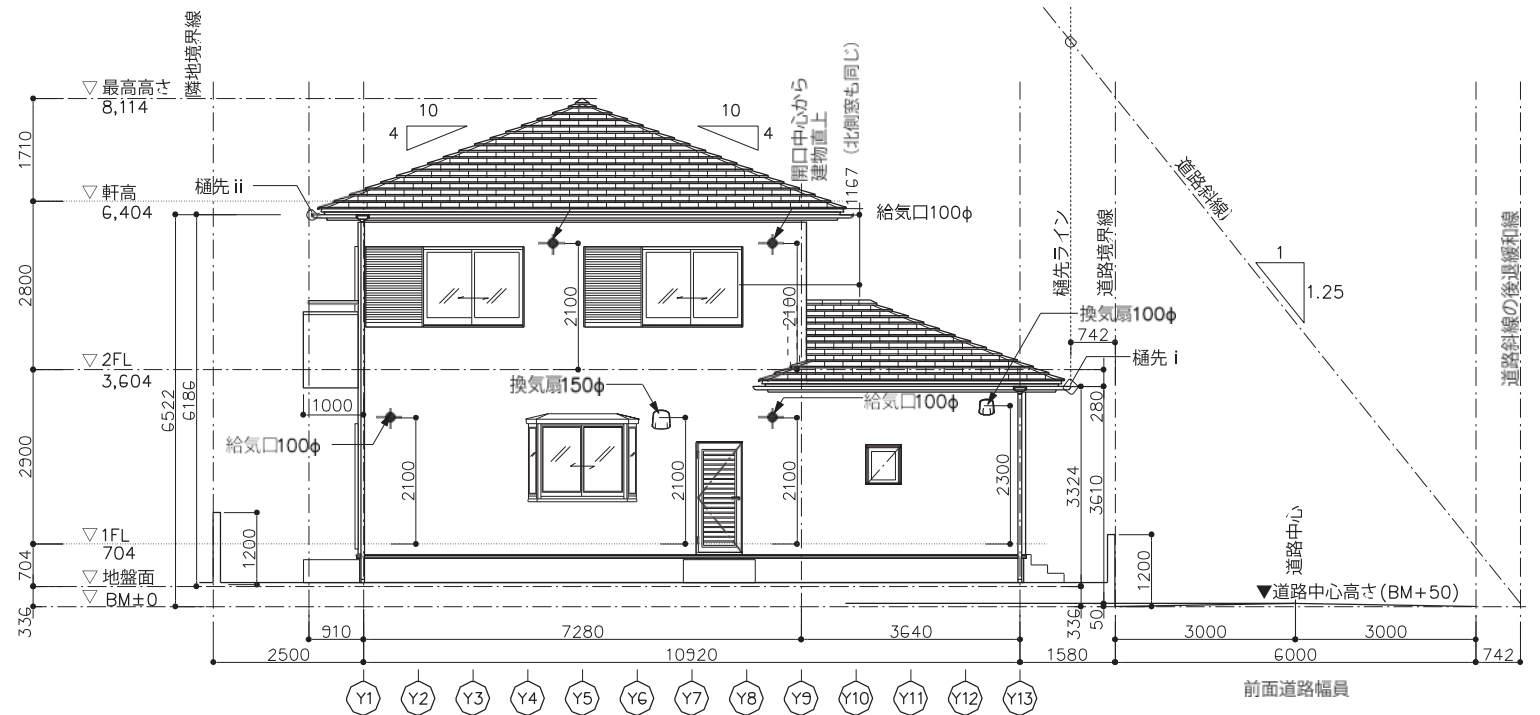
- 凡例
- 住宅用防災機器 (熱式感知器)
 - 住宅用防災機器 (煙式感知器)
 - ⊗ 換気扇100φ・防火覆い付 (令20条の8による換気設備) 設置高さ=FL+2100
 - ⊕ 換気扇100φ・防火覆い付 (台所のみ150φ・FD付) 設置高さ=FL+2100 (レンジフード材質: 亜鉛鉄板)
 - ⇄ 給気口100φ・防火覆い付 設置高さ=FL+2100
 - ドアのアンダーカット等 (通気措置)
 - 防 防火設備 アルミサッシ+複層ガラスA12 (網入厚6.8舎)
 - 給湯器
 - ⊗ 床下点検口

■2階平面図 S=1/100

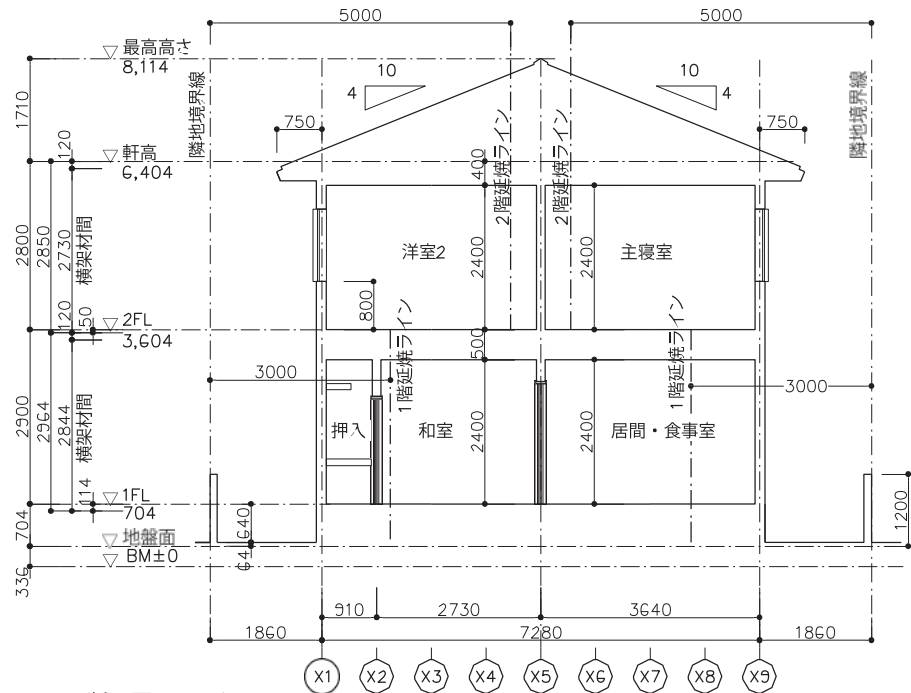
引用: 一般財団法人 日本建築防災協会 一般財団法人 建築行政情報センター 発行 確認申請・審査マニュアルより	一級建築士事務所 ●●●●建築士事務所 一級建築士事務所 ○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 二郎	〇〇邸新築工事	
	平面図	1/100	03



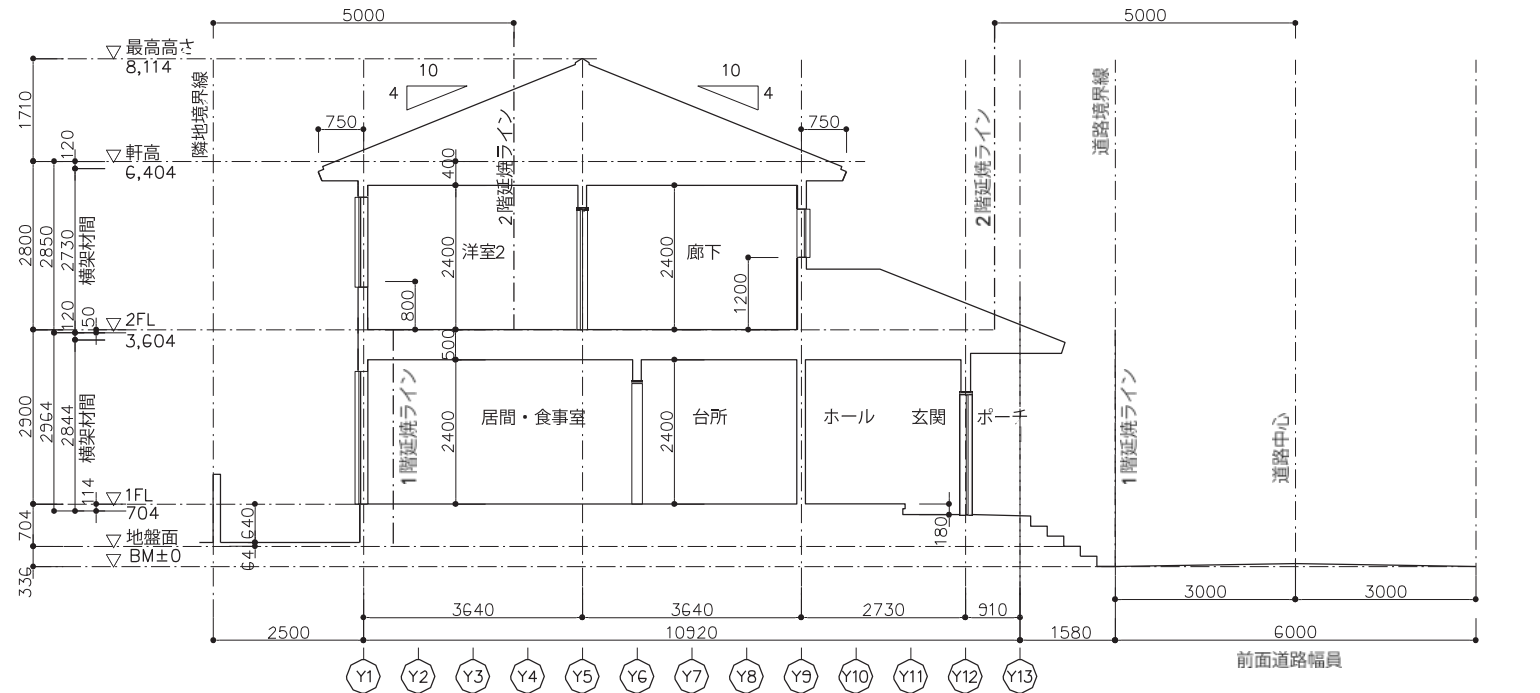
■南側立面図 S=1/100



■東側立面図 S=1/100

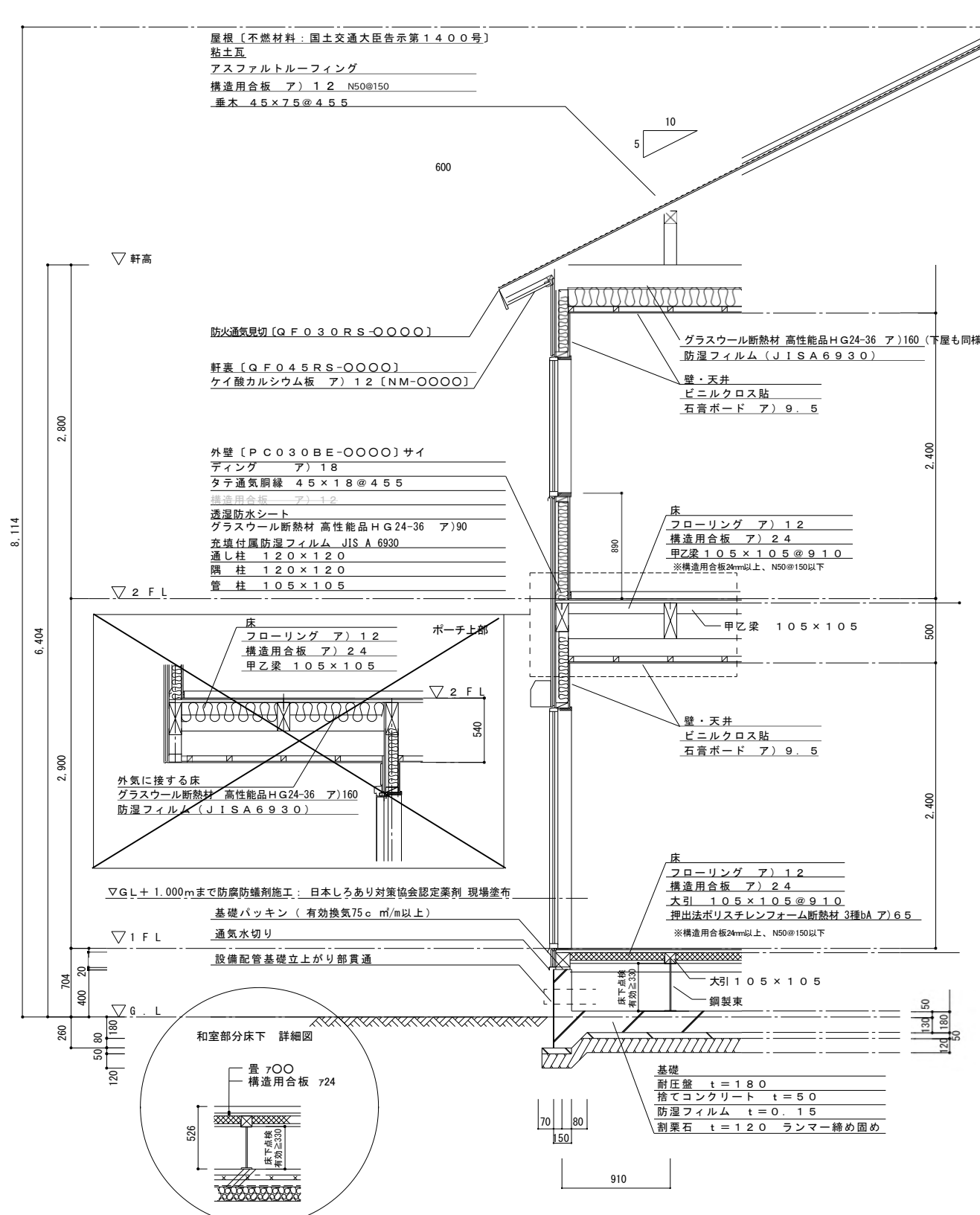


■X-X断面図 S=1/100



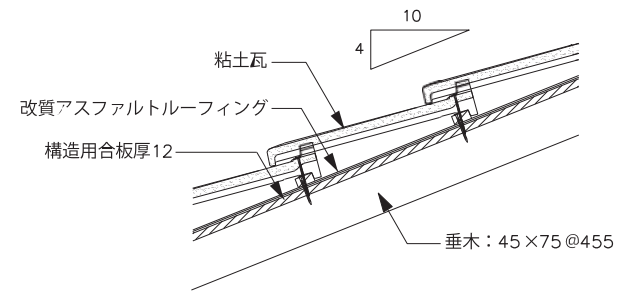
■Y-Y断面図 S=1/100

引用:一般財団法人 日本建築防災協会 一般財団法人 建築行政情報センター 発行 確認申請・審査マニュアルより	一級建築士事務所 ●●●●建築士事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 二郎	〇〇邸新築工事	
	立面図・断面図	1/100	04



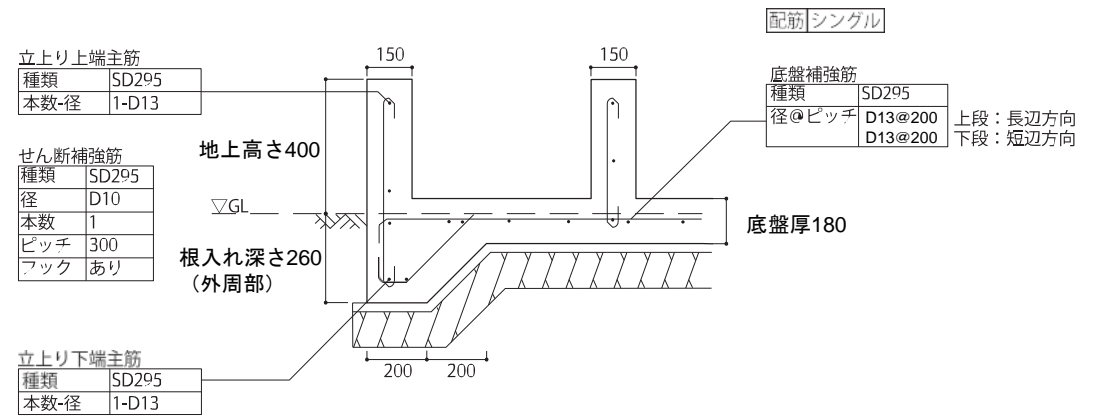
浴室の土間床断熱材
 立上り部
 押出法ポリスチレンフォーム3種b厚さ50(外気側)
 厚さ20(その他部分)

■耐火構造等の構造詳細図（屋根） S=1/10

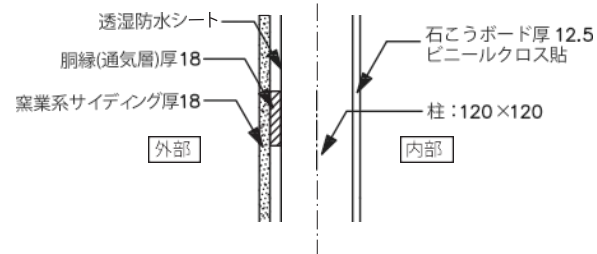


■基礎の仕様 S=1/20

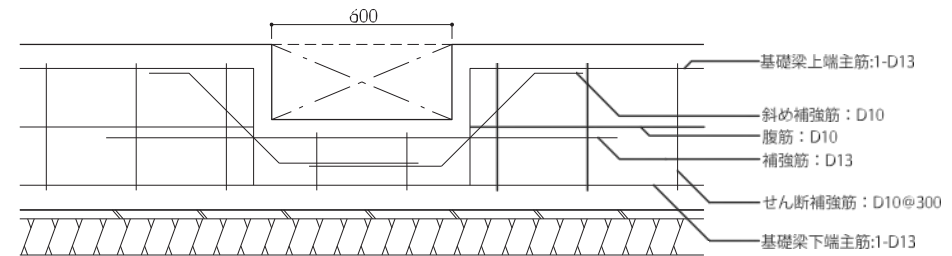
基礎形式 **べた基礎** (単位:mm)



■耐火構造等の構造詳細図（外壁） S=1/10



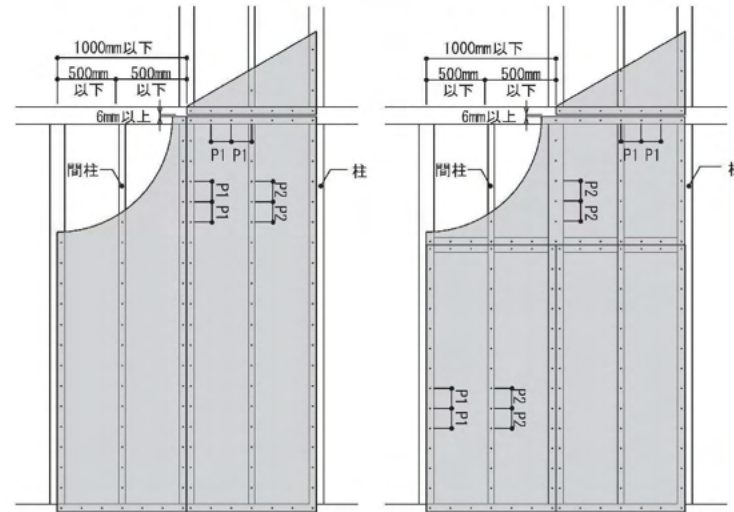
■人通り廻りの開口部補強 S=1/20



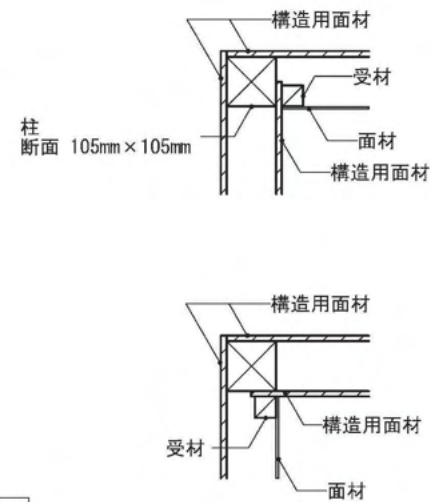
引用:一般財団法人 日本建築防災協会 一般財団法人 建築行政情報センター 発行 確認申請・審査マニュアルより	一級建築士事務所 ●●●●建築士事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 二郎	○○邸新築工事	
	構造詳細図(1)	1/10.1/20	06

○軸組の構造方法

構造用面材との取合い

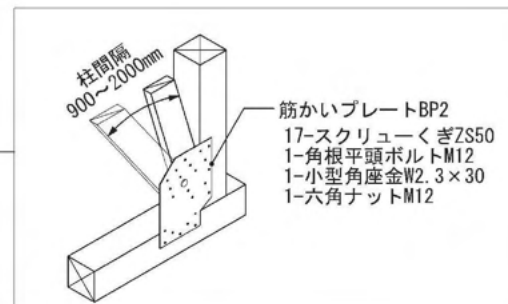
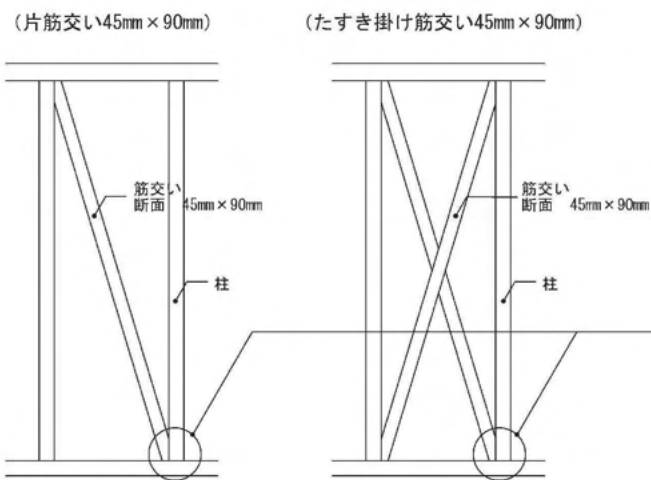


構造用面材の隅部の取合い



構造用面材の種類	厚み (mm)	くぎの種類	外周部くぎ間隔P1	内部くぎ間隔P2	壁倍率
構造用合板	9	N50	150mm以下	150mm以下	2.5

筋交いと取合い



■継手及び仕口の構造方法

	(い) 短ほぞ差し	(い) かすがい打ち	(ろ) 長ほぞ差し込み栓打ち	(ろ) かど金物CP-L	(は) かど金物CP-T	(は) 山形プレートVP2
柱頭						
上下階						
柱脚						

■継手及び仕口の構造方法

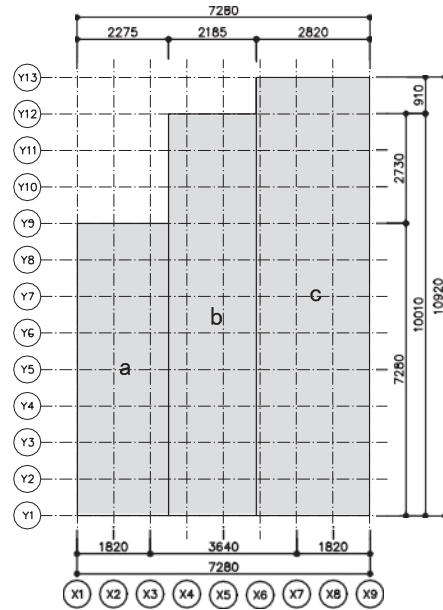
	(に) 羽子板ボルトSB-F2(E2)、羽子板パイプSP-E2	(に) 短ざく金物S(スクリューくぎなし)	(ほ) 羽子板ボルトSB-F(E)、羽子板パイプSP-E	(ほ) 短ざく金物S(スクリューくぎあり)
柱頭	<p>羽子板ボルト SB-F2 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40</p> <p>羽子板パイプ SP-E2 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40</p> <p>※羽子板ボルトSB・E2でも可</p>		<p>羽子板ボルト SB-F 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 1-スクリューくぎZS50</p> <p>羽子板パイプ SP-E 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 1-スクリューくぎZS50</p>	
上下階	<p>羽子板ボルト SB-F2 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40</p> <p>羽子板パイプ SP-E2 3-六角ボルトM12 3-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40</p> <p>上階柱 下階柱 梁</p>	<p>六角ボルトM12 スクリューくぎなし ZS50 短ざく金物S 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40</p>	<p>羽子板ボルト SB-F 1-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 1-スクリューくぎZS50</p> <p>羽子板パイプ SP-E 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 1-スクリューくぎZS50</p>	<p>短ざく金物S 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 3-スクリューくぎZS50</p>
柱脚	<p>羽子板パイプ SP-E2 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40</p> <p>柱 土台 座掘り 基礎</p>		<p>羽子板パイプ SP-E 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 1-スクリューくぎZS50</p>	

■継手及び仕口の構造方法

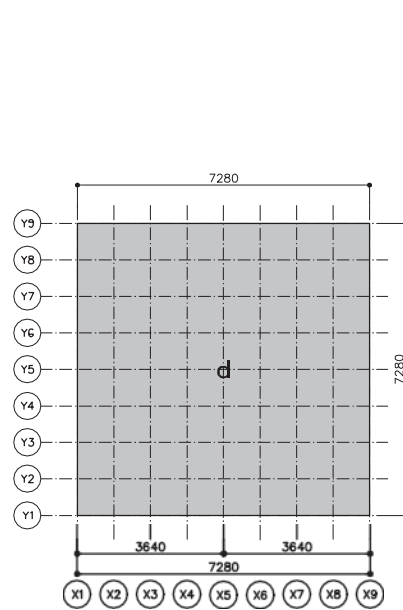
	(へ) 引き寄せ金物S-HD10	(と) 引き寄せ金物S-HD15	(ち) 引き寄せ金物S-HD20	(り) 引き寄せ金物S-HD25	(ぬ) 引き寄せ金物S-HD15×2
柱頭	<p>座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD10 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40</p>	<p>座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD15 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 3-六角ボルトM12 3-六角ナットM12 3-角座金W4.5×40</p>	<p>座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD20 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 4-六角ボルトM12 4-六角ナットM12 4-角座金W4.5×40</p>	<p>座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD25 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 5-六角ボルトM12 5-六角ナットM12 5-角座金W4.5×40</p>	<p>座金付きボルト M16W 引き寄せ金物 S-HD15×2 2-座金付きボルトM16W 2-六角ナットM16 6-六角ボルトM12 6-六角ナットM12 6-角座金W4.5×40</p>
上下階	<p>引き寄せ金物 S-HD10 1-六角ボルトM16 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 又は両ねじボルトM16</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD15 1-六角ボルトM16 1-六角ナットM16 3-六角ボルトM12 3-六角ナットM12 3-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 又は両ねじボルトM16</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD20 1-六角ボルトM16 1-六角ナットM16 4-六角ボルトM12 4-六角ナットM12 4-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 又は両ねじボルトM16</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD25 1-六角ボルトM16 1-六角ナットM16 5-六角ボルトM12 5-六角ナットM12 5-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 又は両ねじボルトM16</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD15×2 2-六角ボルトM16 2-六角ナットM16 6-六角ボルトM12 6-六角ナットM12 6-角座金W4.5×40 六角ボルトM16 又は両ねじボルトM16</p>
柱脚	<p>引き寄せ金物 S-HD10 1-座金付きボルトM16W 1-六角ナットM16 2-六角ボルトM12 2-六角ナットM12 2-角座金W4.5×40 座金付きボルト M16W</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD15 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 3-六角ボルトM12 3-六角ナットM12 3-角座金W4.5×40 アンカーボルト M16</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD20 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 4-六角ボルトM12 4-六角ナットM12 4-角座金W4.5×40 アンカーボルト M16</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD25 1-アンカーボルトM16 1-六角ナットM16 5-六角ボルトM12 5-六角ナットM12 5-角座金W4.5×40 アンカーボルト M16</p>	<p>引き寄せ金物 S-HD15×2 2-アンカーボルトM16 2-六角ナットM16 6-六角ボルトM12 6-六角ナットM12 6-角座金W4.5×40 アンカーボルト M16</p>

柱と土台の仕口	<p>(長ほぞ差し+込み栓打ち)</p> <p>柱 土台 込み栓</p>
はりの仕口	<p>(大入れあり掛け)</p> <p>大ばり 羽子板 ボルト 床ばり</p>
小屋ばりと軒げたとの仕口及び取合い	<p>(大入れあり掛け)</p> <p>軒げた 小屋ばり 柱 軒げた 羽子板 ボルト</p>
軒げたとたる木の仕口	<p>(ひねり金物)</p> <p>たる木 軒げた ひねり金物ST</p>

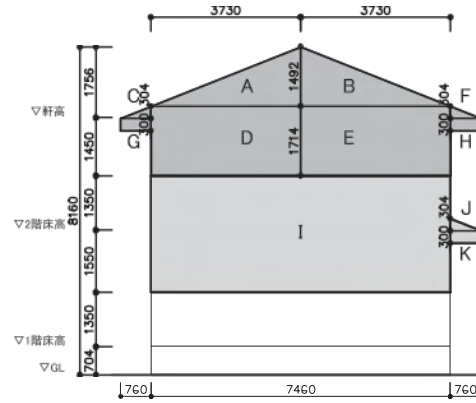
■1階床面積根拠図



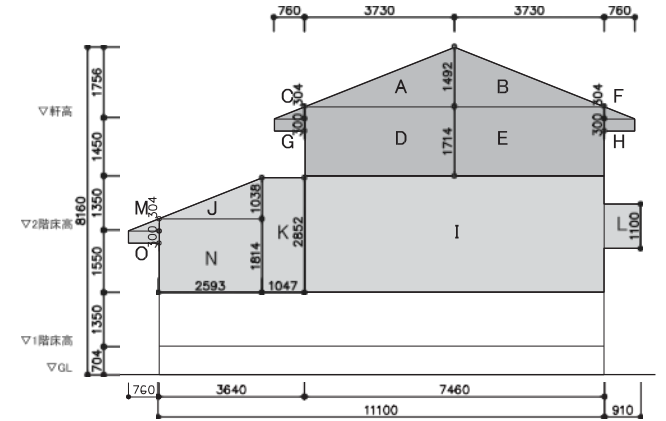
■2階床面積根拠図



■X軸方向見付面積根拠図



■Y軸方向見付面積根拠図



■1階床面積計算表

区画	縦(m)	横(m)	床面積(m ²)	備考
a	7.280	2.275	16.5620000	
b	10.010	2.185	21.8718500	
c	10.920	2.820	30.7944000	

■2階床面積計算表

区画	縦(m)	横(m)	床面積(m ²)	備考
d	7.280	7.280	52.9984000	

■X方向見付面積計算表

区画	計算式	面積(m ²)
A	3.730 × 1.492 + 2	2.7825800
B	3.730 × 1.492 + 2	2.7825800
C	0.760 × 0.304 + 2	0.1155200
D	3.730 × 1.714	6.3932200
E	3.730 × 1.714	6.3932200
F	0.760 × 0.304 + 2	0.1155200
G	0.760 × 0.300	0.2280000
H	0.760 × 0.300	0.2280000
I	7.460 × 2.900	21.6340000
J	0.760 × 0.304 + 2	0.1155200
K	0.760 × 0.300	0.2280000

■Y方向見付面積計算表

区画	計算式	面積(m ²)
A	3.730 × 1.492 + 2	2.7825800
B	3.730 × 1.492 + 2	2.7825800
C	0.760 × 0.304 + 2	0.1155200
D	3.730 × 1.714	6.3932200
E	3.730 × 1.714	6.3932200
F	0.760 × 0.304 + 2	0.1155200
G	0.760 × 0.300	0.2280000
H	0.760 × 0.300	0.2280000
I	7.460 × 2.900	21.6340000
J	2.593 × 1.038 + 2	1.3457670
K	1.047 × 2.852	2.9860440
L	0.910 × 1.100	1.0010000
M	0.760 × 0.304 + 2	0.1155200
N	2.593 × 1.814	4.7037020
O	0.760 × 0.300	0.2280000

■壁量判定用床面積

階	部位	計算式	壁量判定用床面積(m ²)
2階	床	d	53.00
	合計	(2階床)	53.00
1階	床	a+b+c	69.23
	合計	(1階床)	69.23

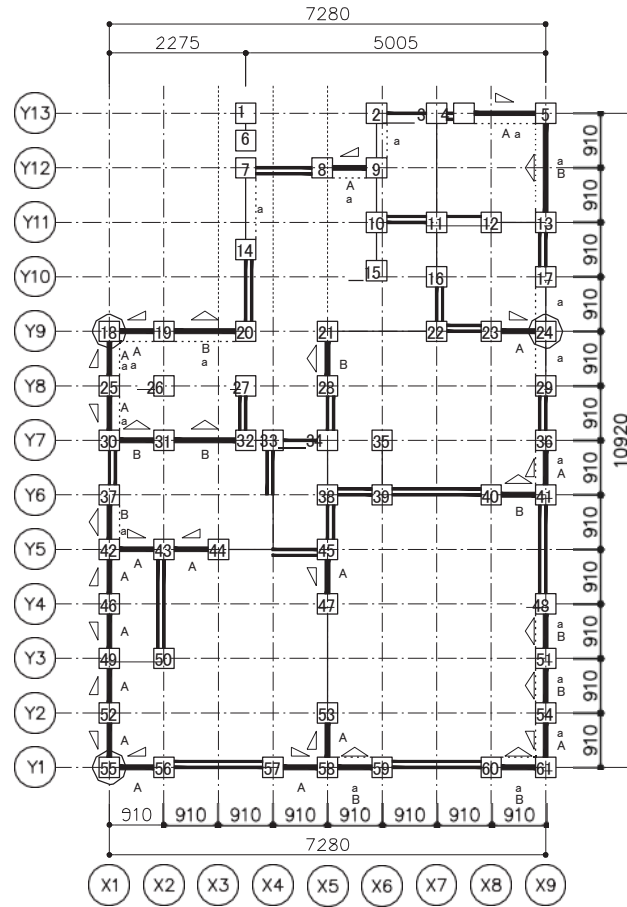
■X軸方向見付面積計算結果→Y方向必要壁量の根拠

階	計算式	見付面積(m ²)
2階	2階A+B+C+D+E+F+G+H	19.04
1階	1階A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K	41.02

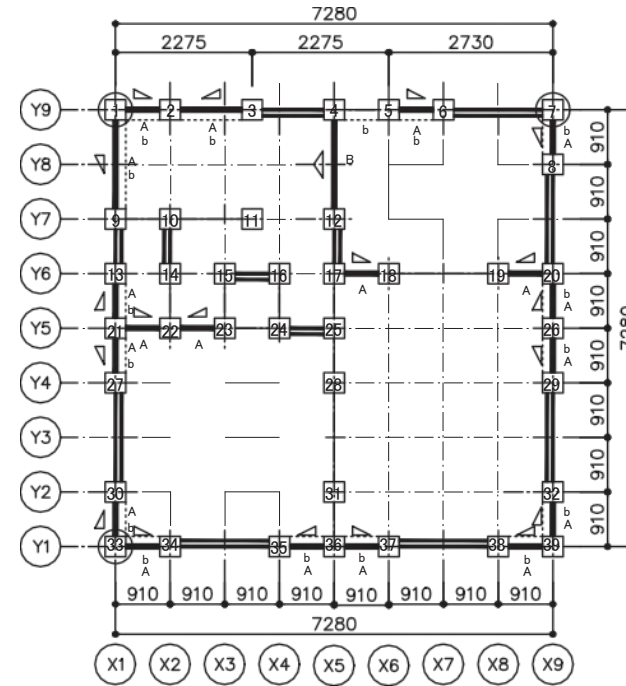
■Y軸方向見付面積計算結果→X方向必要壁量の根拠

階	計算式	見付面積(m ²)
2階	2階A+B+C+D+E+F+G+H	19.04
1階	1階A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O	51.05

■ 1階壁量平面図



■ 2階壁量平面図



凡例 — 一般壁 — 耐力壁 △ 筋かいダブル □ 柱
 = 開口部 - - - 準耐力壁等 ≡ 筋かいシングル n 柱

■ 耐力壁・準耐力壁仕様一覧

種類	壁記号	材種名	基準	係数	開口有無	開口高さ (cm)	取付高さ (cm)	下地貼材高さ (cm)	垂壁高さ (cm)	腰壁高さ (cm)	下地貼材実高さ (cm)	横架材間内法寸法 (cm)	有効壁倍率	最低厚さ (mm)	規格	くぎ打ちの方法	
																種類	間隔 (mm)
耐力壁	A	筋かい(45×90)(シングル)	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.00	-	-	-	-
	B	筋かい(45×90)(ダブル)	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.00	-	-	-	-
準耐力壁等	a	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	12.0	JIS A6901-2005	GNF40又はGNC40	150以下
	b	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.9	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	12.0	JIS A6901-2005	GNF40又はGNC40	150以下

・有効壁倍率=基準倍率×係数×下地貼材実高さ÷横架材間内法寸法
 ※本表に記載する以外の準耐力壁等の算入は行わない。

■ 壁量判定(必要壁量検討方法: A早見表)

階・方向	地震力に対する床面積当たりの必要壁量			風圧力に対する見付け面積当たりの必要壁量			必要壁量の決定				存在壁量 (cm)	壁量判定 必要壁量 ≤ 存在壁量
	床面積 (m ²)	係数 (cm/m ²)	必要壁量 (cm)	見付け面積 (m ²)	係数 (cm/m ²)	必要壁量 (cm)	地震力 (cm)	記号	風圧力 (cm)	必要壁量 (cm)		
2階X方向	53.00	27	1,431.00	19.04	50	952.00	1,431.00	>	952.00	1,431.00	2,456.55	OK
2階Y方向	53.00	27	1,431.00	19.04	50	952.00	1,431.00	>	952.00	1,431.00	2,750.93	OK
1階X方向	69.23	39	2,699.97	51.05	50	2,552.50	2,699.97	>	2,552.50	2,699.97	4,381.65	OK
1階Y方向			2,699.97	41.02		2,051.00	2,699.97	>	2,051.00	2,699.97	4,556.83	OK

- 風圧力の区分: 一般地域
- 各階ごとに、X方向、Y方向のそれぞれについて、CとFを比較して、大きい方をこの建築物の必要壁量として採用します。
- 地震力の必要壁量は、「地盤割増(令第46条第4項)」を含む(地盤割増:1.0)

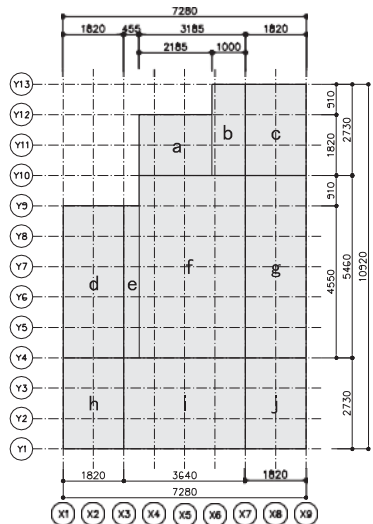
■ 存在壁量の算定

階・方向	壁記号	有効壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (耐力壁) (cm)	存在壁量 (準耐力壁等) (cm)	存在壁量 (合計) (cm)
2階/X方向	A	2.00	1,046.50	2,093.00		2,456.55
	b	0.47	773.50		363.55	
2階/Y方向	A	2.00	819.00	1,638.00		2,750.93
	B	4.00	182.00	728.00		
1階/X方向	A	2.00	773.50	1,547.00		4,381.65
	B	4.00	637.00	2,548.00		
1階/Y方向	a	0.45	637.00		286.65	4,556.83
	A	2.00	910.00	1,820.00		
1階/Y方向	B	4.00	546.00	2,184.00		4,556.83
	a	0.45	1,228.50		552.83	

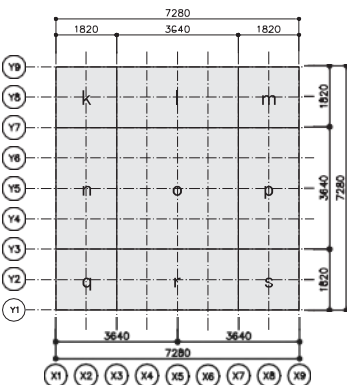
■ 準耐力壁等の必要壁量に対する割合の確認

階・方向	必要壁量 (cm)	存在壁量 (準耐力壁等) (cm)	B/A	判定
	A	B	C	C < 1/2
2階/X方向	1,431.00	363.55	0.26	OK
2階/Y方向	1,431.00	384.93	0.27	OK
1階/X方向	2,699.97	286.65	0.11	OK
1階/Y方向	2,699.97	552.83	0.21	OK

・各階・各方向の必要壁量の1/2以下の範囲内で準耐力壁等を加算する場合、準耐力壁等を考慮せずに壁配置のバランスの確認を行います。また、壁倍率が1.5倍以下の準耐力壁等を考慮せずに柱頭・柱脚の接合方法の確認を行います。



凡例 □ 床面積区画 a b c...床面積区画名



■1階四分割法面積根拠図

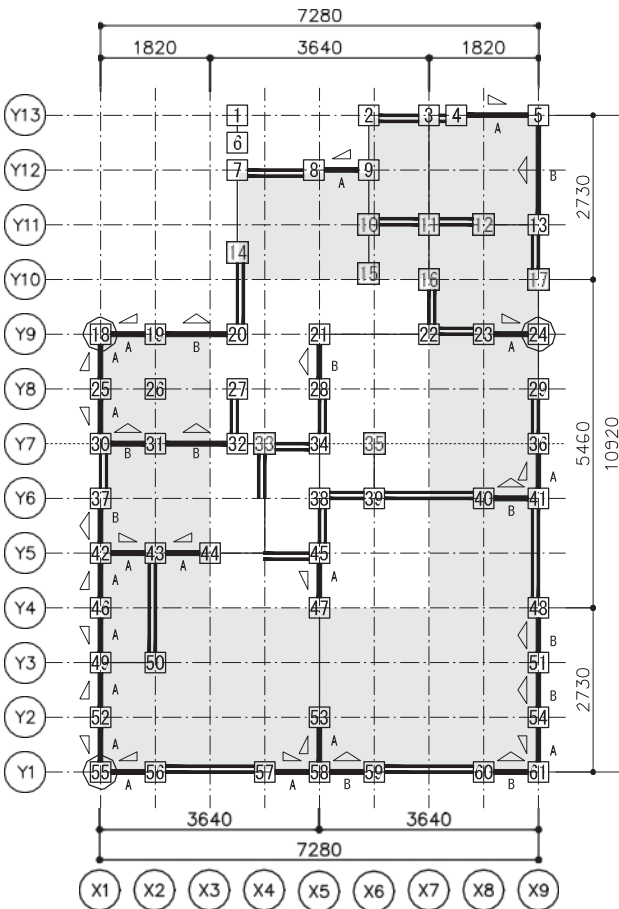
■区画別床面積計算表 [1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	1.820	2.185	3.9767000	
b	2.730	1.000	2.7300000	
c	2.730	1.820	4.9686000	
d	4.550	1.820	8.2810000	
e	4.550	0.455	2.0702500	
f	5.460	3.185	17.3901000	
g	5.460	1.820	9.9372000	
h	2.730	1.820	4.9686000	
i	2.730	3.640	9.9372000	
j	2.730	1.820	4.9686000	

■2階四分割法面積根拠図

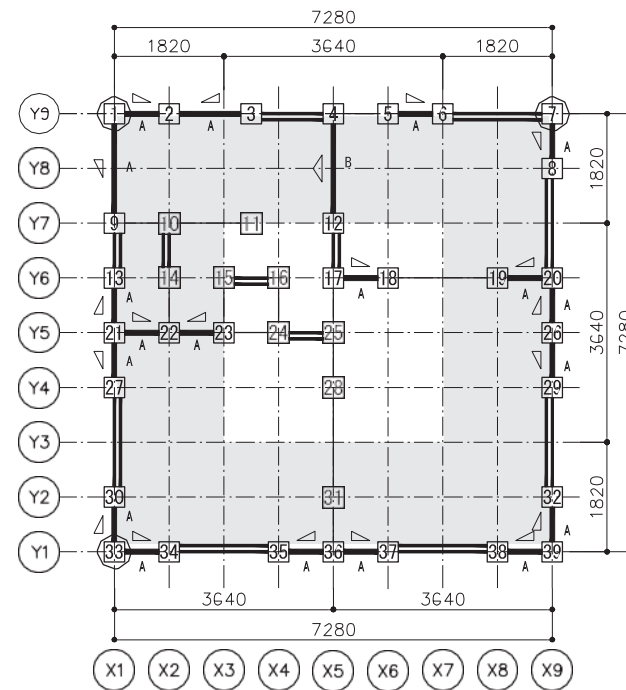
[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
k	1.820	1.820	3.3124000	
l	1.820	3.640	6.6248000	
m	1.820	1.820	3.3124000	
n	3.640	1.820	6.6248000	
o	3.640	3.640	13.2496000	
p	3.640	1.820	6.6248000	
q	1.820	1.820	3.3124000	
r	1.820	3.640	6.6248000	
s	1.820	1.820	3.3124000	



■1階四分割法平面図

凡例 — 一般壁 ■ 耐力壁 ▲ 筋かいダブル □ 柱 筋かいシングル ⊕ 柱
 = 開口部 □ 1/4範囲 柱頭 柱脚 筋かいシングル ⊕ 通し柱



■2階四分割法平面図

■四分割対象面積

階	方向	位置	計算式	面積 (㎡)
2	X	上	(k+l+m)	13.25
		下	(q+r+s)	13.25
	Y	左	(k+n+q)	13.25
		右	(m+p+s)	13.25
1	X	上	(a+b+c)	11.88
		下	(h+i+j)	19.88
	Y	左	(d+h)	13.25
		右	(c+g+i)	19.88

■1階X方向上の存在壁量(cm)

種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	Y13	273.00										273.00
耐力壁	Y12	182.00										182.00
存在壁量												455.00

■2階X方向上の存在壁量(cm)

種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	Y9	182.00	273.00	182.00								637.00
存在壁量												637.00

■1階X方向下の存在壁量(cm)

種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	Y1	182.00	182.00	364.00	364.00							1,092.00
存在壁量												1,092.00

■2階X方向下の存在壁量(cm)

種類	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	Y1	182.00	182.00	182.00	182.00							728.00
存在壁量												728.00

■四分割法判定

階	方向	位置	有効面積 (㎡)	壁量係数 (cm/㎡)	地盤割増	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	壁量充足率判定	壁量充足率がNGの場合の壁率比	壁比率判定
			①	②	③	④=①×②×③	⑤	⑥=⑤÷④	⑦>1.00	⑧=⑥小÷⑦大	⑨≥0.5
2	X	上	13.25	27	1.0	357.75	637.00	1.78	OK	(0.87)	(OK)
		下	13.25	27	1.0	357.75	728.00	2.03	OK		
	Y	左	13.25	27	1.0	357.75	910.00	2.54	OK		
		右	13.25	27	1.0	357.75	728.00	2.03	OK	(0.79)	(OK)
1	X	上	11.88	20(*)	1.0	233.60	455.00	1.95	OK	(0.72)	(OK)
		下	19.88	39	1.0	775.32	1,092.00	1.41	OK		
	Y	左	13.25	39	1.0	516.75	1,456.00	2.82	OK		
		右	19.88	39	1.0	775.32	1,820.00	2.35	OK	(0.83)	(OK)

■1階Y方向左の存在壁量(cm)

種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	X1	182.00	182.00	364.00	182.00	182.00	182.00	182.00				1,456.00
存在壁量												1,456.00

■2階Y方向左の存在壁量(cm)

種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	X1	364.00	182.00	182.00	182.00							910.00
存在壁量												910.00

■1階Y方向右の存在壁量(cm)

種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	X9	728.00	182.00	364.00	364.00	182.00						1,820.00
存在壁量												1,820.00

■2階Y方向右の存在壁量(cm)

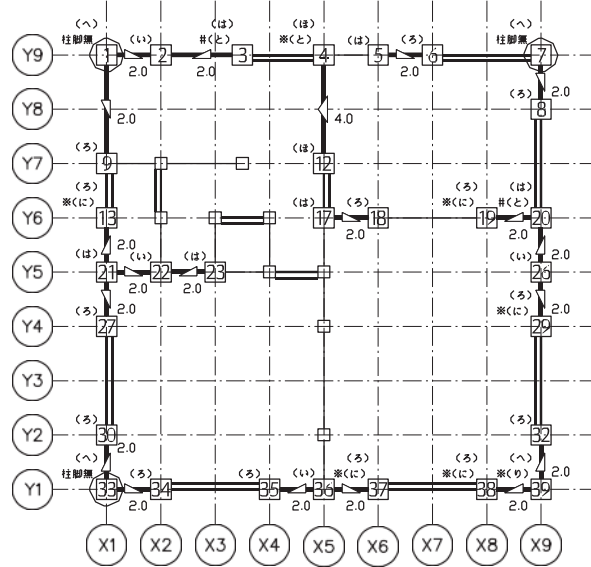
種類	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	合計
耐力壁	X9	182.00	182.00	182.00	182.00							728.00
存在壁量												728.00

*各通りに存在する耐力壁(筋かい-面材)毎の存在壁量を壁1、壁2、...と表示しています。
 (存在壁量 = 耐力壁の壁倍率 × 長さとして)

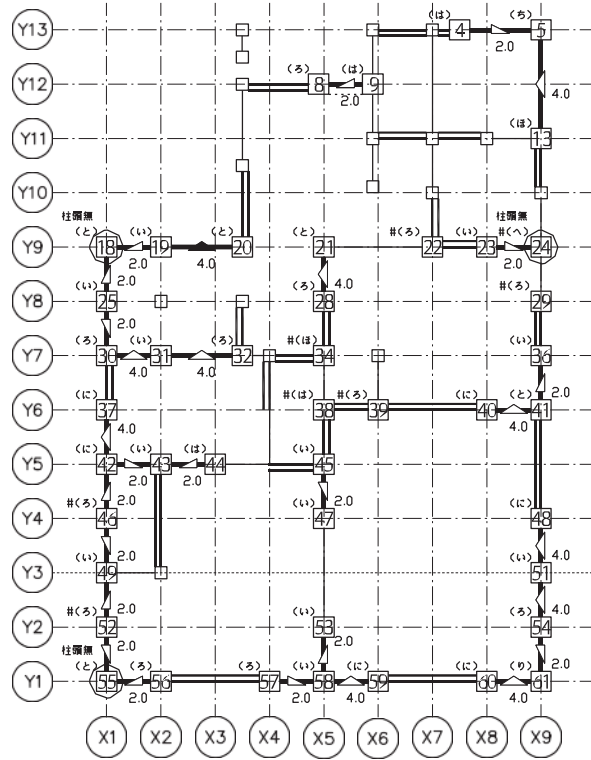
壁量係数欄の()は2階が乗らない領域のため平屋の係数を用いたことを表します。
 *壁比率判定は、壁量充足率が全てOKの場合記入不要ですが、参考として()を付けて記入しています。

四分割法判定
 適合

■2階柱頭柱脚金物算定平面図



■1階柱頭柱脚金物算定平面図



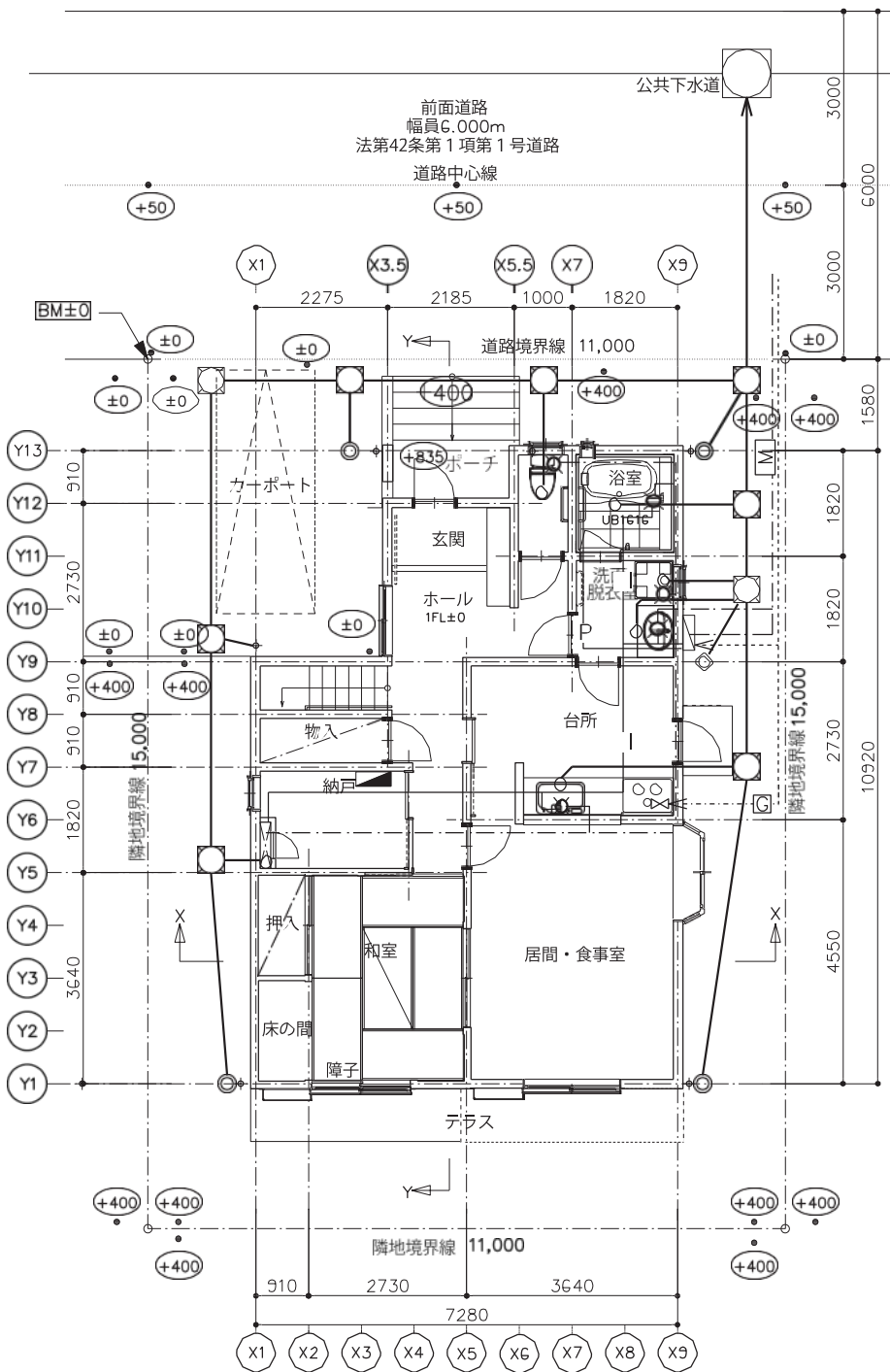
凡例
 — 一般壁
 — 耐力壁
 ≡ 開口部
 △ 筋かいダブル
 ⊠ 筋かいシングル
 ⊕ 柱
 ⊙ 通し柱

■1階柱頭柱脚金物算定表

階	柱	方向	柱状況	1階				2階				補正		L		N		接合金物		
				パターン	補正値	A1	B1	2/9/2/7	柱	柱状況	パターン	補正値	A2	B2	柱頭	柱脚	柱頭	柱脚		
4	X	下屋ノ他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.08					0.6	1.04	0.75	(は)	(は)			
5	X	下屋ノ出隅	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.8	1.08					0.4	1.04	0.90	(ち)	(ち)			
8	X	下屋ノ他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.5	1.08					0.6	1.04	3.05	(は)	(は)			
9	X	下屋ノ他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.08					0.6	1.04	0.75	(は)	(は)			
13	X	下屋ノ他柱	0.0	4.0	0.0	4.0	0.5	1.08					0.6	1.04	1.55	(は)	(は)			
18	X	出隅	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.8	1.08	1	出隅	0.0	2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	1.04	2.40	無(通し柱)	(と)
19	X	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.08	1	出隅	2.0	0.0	0.5	2.5	0.8	1.0	1.04	2.40	無(通し柱)	(と)
20	X	他柱	4.0	0.0	0.0	4.0	0.5	1.08	3	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.04	1.85	(と)	(と)
21	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	5	他柱(右)	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.04	-0.30	(と)	(と)
22	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	5	他柱(左)	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.04	-0.30	(と)	(と)
23	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08							1.6	1.04	-0.25	(い)	(い)	
24	X	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.08							1.6	1.04	-0.75	無(通し柱)	(へ)	
25	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	7	出隅	2.0	0.0	0.5	2.5	0.8	1.6	1.04	0.50	(と)	(と)
28	Y	他柱	2.0	0.0	1.0	1.0	0.5	1.08							1.6	1.04	1.05	(い)	(い)	
29	Y	他柱	0.0	4.0	0.0	4.0	0.5	1.08							1.6	1.04	0.55	(ろ)	(ろ)	
30	X	他柱	0.0	4.0	0.0	4.0	0.5	1.08							1.6	1.04	0.55	(ろ)	(ろ)	
31	X	他柱	4.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08							1.6	1.04	1.60	(い)	(い)	
32	X	他柱	4.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08							1.6	1.04	0.55	(ろ)	(ろ)	
34	Y	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	12	他柱	0.0	4.0	0.0	4.0	0.5	1.6	1.04	0.50	(は)	(は)
36	Y	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.08							1.6	1.04	-0.75	(い)	(い)	
37	Y	他柱	4.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	13	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	1.35	(に)	(に)
38	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	17	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.04	-0.30	(は)	(は)
39	X	他柱	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	18	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	-0.80	(ろ)	(ろ)
40	X	他柱	0.0	4.0	0.0	4.0	0.5	1.08	19	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	1.35	(に)	(に)
41	X	他柱	4.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	20	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.04	1.85	(と)	(と)
42	Y	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.08	20	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	0.55	(ろ)	(ろ)
43	X	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.08	21	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.04	1.05	(に)	(に)
44	X	他柱	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08	22	他柱	2.0	0.0	0.0	0.5	1.6	1.04	-1.60	(い)	(い)	
45	Y	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.08	23	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.04	1.05	(に)	(に)
46	Y	他柱	2.0	0.0	1.0	1.0	0.5	1.08	27	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	-0.25	(ろ)	(ろ)
47	Y	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.5	1.08							1.6	1.04	-0.75	(い)	(い)	
48	Y	他柱	4.0	0.0	0.0	4.0	0.5	1.08	29	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	1.35	(に)	(に)
49	Y	他柱	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08							1.6	1.04	-1.60	(い)	(い)	
51	Y	他柱	4.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.08							1.6	1.04	-1.60	(い)	(い)	
52	Y	他柱	2.0	0.0	1.0	1.0	0.5	1.08	30	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	-0.25	(ろ)	(ろ)
53	Y	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.08							1.6	1.04	-0.75	(い)	(い)	
54	Y	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.08	32	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	0.55	(ろ)	(ろ)
55	X	出隅	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.8	1.08	33	出隅	0.0	2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	1.04	2.40	無(通し柱)	(と)
56	X	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.5	1.08	33	出隅	0.0	2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	1.04	2.40	無(通し柱)	(と)
57	X	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.08	34	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	0.55	(ろ)	(ろ)
58	X	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.5	1.08	35	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	0.55	(ろ)	(ろ)
59	X	他柱	4.0	0.0	0.0	4.0	0.5	1.08	37	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	1.35	(に)	(に)
60	X	他柱	0.0	4.0	0.0	4.0	0.5	1.08	38	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.04	1.35	(に)	(に)
61	X	出隅	4.0	0.0	0.0	4.0	0.8	1.08	39	出隅	2.0	0.0	0.5	2.5	0.8	1.0	1.04	4.55	(り)	(り)
	Y	出隅	0.0	2.0	0.5	2.5	0.8	1.08	39	出隅	0.0	2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	1.04	2.40		

■2階柱頭柱脚金物算定表

階	柱	方向	柱状況	パターン	補正値	A1	B1	L	2.8/2.7	N	接合金物		
											柱頭	柱脚	
1	X	出隅	0.0	2.0	0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.04	1.70	(へ)	無(通し柱)
2	X	他柱	2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	1.04	-0.60	(い)	(い)		
3	X	他柱	2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	1.04	0.70	(は)	(は)		
4	Y	他柱	4.0	0.0	0.0	4.0	0.5	1.04	1.45	(は)	(は)		
5	X	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.6	1.04	0.70	(は)	(は)		
6	X	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
7	Y	出隅	2.0	0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.04	1.70	(へ)	無(通し柱)	
8	Y	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
9	Y	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
12	Y	他柱	0.0	4.0	0.0	4.0	0.5	1.04	1.45	(は)	(は)		
13	Y	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
17	X	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.6	1.04	0.70	(は)	(は)		
18	X	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
19	X	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
20	X	他柱	2.0	0.0	0.5	2.5	0.6	1.04	0.70	(は)	(は)		
21	X	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
22	X	他柱	2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	1.04	-0.60	(い)	(い)		
23	X	他柱	2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	1.04	0.70	(い)	(い)		
26	Y	他柱	2.0	0.0	1.0	1.0	0.5	1.04	-0.10	(い)	(い)		
27	Y	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
29	Y	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
30	Y	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
32	Y	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
33	X	出隅	0.0	2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.04	1.70	(へ)	無(通し柱)	
34	X	他柱	0.0	2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.04	1.70	(へ)	無(通し柱)	
35	X	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
36	X	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	-0.10	(い)	(い)		
37	X	他柱	2.0	0.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(ろ)	(ろ)		
38	X	他柱	0.0	2.0	-0.5	1.5	0.6	1.04	0.15	(



■1階平面図 S=1/100

⊕:BMからの高さを示す



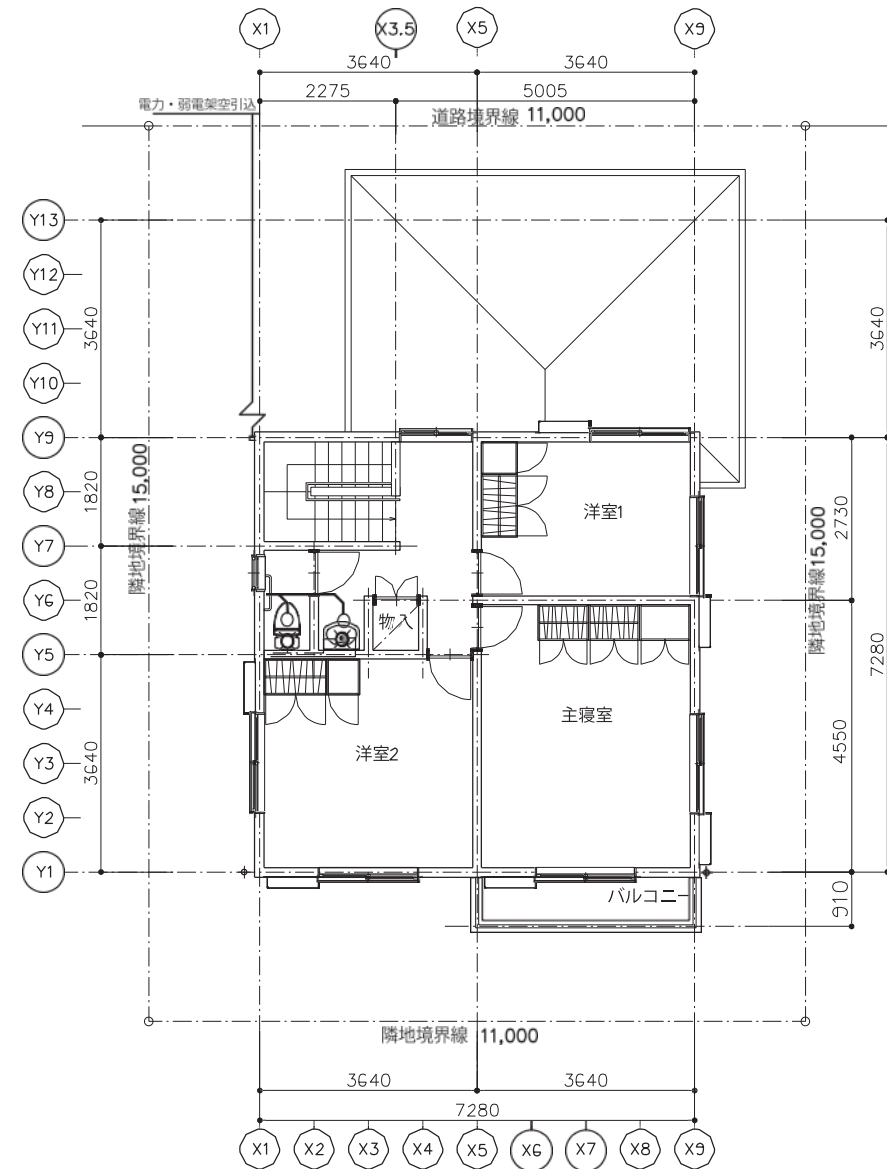
設備概要	給水	給水本管より
給温水	水道用塩化ビニル管	ガス給湯器より
排水	水道用塩化ビニル管 20φ (防露GW厚20)	汚水・雑排水合流方式にて下水道本管処理
ガス	給湯管 ステンレス鋼管 20φ (防露GW厚20)	厨房用・給湯用として都市ガス13A(低圧ガス)
換気	給湯管 ペアチューブ銅管	自然換気・第3種機械換気
	排水管 硬質ポリ塩化ビニル管	
	ガス管 ○○ガス指定品	

■凡例

—M—	引込み管	水道用塩化ビニル管	給湯器	○	排水樹	
—	給水管	水道用塩化ビニル管 20φ (防露GW厚20)	⊗	混合水栓 (給湯・給水)	+	竖樋 60φ
—	給湯管	ステンレス鋼管 20φ (防露GW厚20)	⊗	水栓 (給水)	○	雨水樹 200φ
—P—	給湯管	ペアチューブ銅管	○	排水	⚡	受電点 (電圧:単相3線式200V)
—	排水管	硬質ポリ塩化ビニル管	□	追焚き	■	分電盤
—G—	ガス管	○	○	ガス指定品		

■特記事項

- 〈共通〉
- 上水道管理者及び下水道管理者と協議済み
- 〈給水設備〉
- 有効な吐水口空間を確保すること
- 給水管にはウォーターハンマー防止措置を行う
- 〈排水設備〉
- 排水トラップの構造は、昭50年第1597号第2第3号の規定に適合すること
- 通気管の構造は、昭50年第1597号第2第5号の規定に適合すること
- 排水配管の構造は、令129条の2の4第3項に適合すること



■2階平面図 S=1/100



引用:一般財団法人 日本建築防災協会 一般財団法人 建築行政情報センター 発行 確認申請・審査マニュアルより	一級建築士事務所 ●●●●建築士事務所 一級建築士事務所○○知事登録○○○○号 一級建築士○○○○大臣登録第○○○○号 建築 二郎	○○邸新築工事	
	給排水衛生・電気設備図	1/100	15

・ホルムアルデヒドの発散による衛生上の支障がないようにするための構造

種類	機械換気設備（第3種換気）
換気回数	0.63回/h（下表による）
居室出入口の通気措置	ドアのアンダーカット1cm、ふすま、引戸、換気ガラリ
機械換気最終設置場所	便所（1階、2階）

■居室毎の機械換気設備 ※換気経路ではない納戸、押入は対象外

室名	床面積 m ²	平均天井高 h	気積 m ³	必要有効 換気量(A) m ³ /h	換気種別	給気機による 給気量(A) m ³ /h	排気機による 排気量(B) m ³ /h	換気回数 n
1F 玄関	2.485	2.580	6.412	254.960×0.5	第3種換気設備 給気口及び 排気機		80	
1F ホール	5.300	2.400	12.720					
1F 廊下	4.304	2.400	10.330					
1F 階段	2.070	2.175	4.503					
1F 便所	1.820	2.400	4.368					
1F 台所	9.937	2.400	23.849					
1F 居間	16.562	2.400	39.749					
1F 和室・床の間	11.593	2.400	27.824					
2F 廊下	6.624	2.400	15.898					
2F 階段	4.140	2.400	9.936					
2F 便所	1.656	2.400	3.975					
2F 主寝室	16.562	2.400	39.749					
2F 洋室1	9.937	2.400	23.849					
2F 洋室2	13.249	2.400	31.798					
合計			254.960		127.480		160	0.63>0.5

■有効換気計算表

室名	建具記号	開口部名称 サッシサイズ	窓ガラスの面積 B	居室面積 S	有効換気面積 C=B/2	必要換気面積 D=S/20	換気判定 C>D
居間・食事室	AW1	引違い(南側) W1650/H2200	0.7×2.0×2=2.80	16.562	1.40	0.83	OK
和室	AW2	引違い(南側) W1650/H2000	0.7×1.8×2=2.52	11.593	1.26	0.58	OK
主寝室	AW3	引違い(南側) W1650/H2000	0.7×1.8×2=1.26	16.562	1.26	0.83	OK
洋室1	AW4	引違い(北側) W1650/H1100	0.7×1.0×2=1.40	9.937	0.70	0.50	OK
洋室2	AW4	引違い(南側) W1650/H1100	0.7×1.0×2=1.40	13.249	0.70	0.66	OK

■採光適合確認

室名	建具記号	開口部名称 サッシサイズ	直上頂部から 敷地境界 D	窓中心から 直上頂部 H	採光補正係数		窓ガラスの面積 B	有効採光面積 E=A×B	居室面積 S	必要採光面積 F=S/7	採光判定 E>F
					D/H×6-1.4(算定式)	A					
居間・食事室	AW1 2階軒先	引違い(南側) W1650/H2200	1.650	4.383	2階軒先 0.85	0.85	0.7×2.0×2=2.80	2.38	16.562	2.37	OK
	AW1 バルコニー	引違い(南側) W1650/H2200	1.450	1.500	バルコニー 4.39						
和室	AW2	引違い(南側) W1650/H2000	1.650	4.483	0.80	0.80	0.7×1.8×2=2.52	2.01	11.593	1.66	OK
主寝室	AW3	引違い(南側) W1650/H2000	1.650	0.875	9.91	3.00	0.7×0.9×2=1.26	3.78	16.562	2.37	OK
洋室1	AW4	引違い(北側) W1650/H1100	10.346	1.167	51.79	3.00	0.7×1.0×2=1.40	4.20	9.937	1.42	OK
洋室2	AW4	引違い(南側) W1650/H1100	1.650	1.167	7.08	3.00	0.7×1.0×2=1.40	4.20	13.249	1.89	OK

居間・食事室の窓AW1の直上にはバルコニーがありますので、バルコニーの頂部と2階軒先から敷地境界線までの水平距離（D）の両方について検討を行い、厳しい条件の方が採光補正係数（A）となります。採光補正係数の最大は、3.0ですので、「D/H×6-1.4」の値が3.0を超えた場合は、3.0が採光補正係数（A）となります。